

コ・フェスタ2024 実施報告書



CoFesta

2024

令和7年3月
特定非営利活動法人映像産業振興機構

目 次

1 基本情報	
i はじめに（委員長挨拶）	2
ii 事業概要（事業目的・実施体制・運営組織）	3
実行委員一覧	4
iii イベント一覧	5
iv 百人委員会 企業一覧	6
2 コ・フェスタ実行委員会	7
3 プロモーション 広報制作物	8
4 イベント報告	
i コアイベント	9
ii オフィシャルイベント	19
iii パートナーイベント	37

- ・ 氏名は敬称略を基本とします。
 - ・ 株式会社、有限会社、合同会社、独立行政法人は、それぞれ(株)、(有)、(同)、(独)と略することを基本とします。
 - ・ 一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人は、それぞれ（一社）、（公社）、（一財）、（公財）、（特非）と略することを基本とします。
 - ・ 国立研究開発法人、協同組合は、それぞれ（国研）、（協組）と略することを基本とします。

1 基本情報

1- i はじめに



コ・フェスタ実施報告書発行にあたり

コ・フェスタ 2024 実行委員長 迫本 淳一

皆様方におかれましては、「コ・フェスタ 2024」の開催に際しまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

コ・フェスタは、日本が世界に誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを統合的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトです。2007 年から開催されて 18 年目を迎えた 2024 年度は、32 のイベントがコ・フェスタに認定され、国内外から多くの方にご参加いただくとともに、業界の垣根を越えた交流やビジネス展開を促進いたしました。

2024 年の日本のコンテンツ業界は、国内外の市場動向や技術革新に対応するための積極的な取り組みが見られ、デジタル技術の進展と多様なメディアの融合により、さらなる成長と変革を遂げました。日本コンテンツにおける海外売上は、鉄鋼産業や半導体産業に匹敵する規模まで拡大しており、日本の基幹産業として成長が見込まれる市場となっています。今後更なる発展と国際的な競争力の強化が望まれます。

本年度のコ・フェスタ 2024 のイベントではスマートフォンやタブレットの普及がデジタルコンテンツ市場の拡大を後押しし、参加者同士の直接交流によって情報発信がなされ、新たなファン層の獲得にも繋がりました。コ・フェスタでは横の連携を強調し、18 年間で培ったコンテンツ業界としての一体感と海外への発信力を一段と高めるべく、支援強化に努めて参ります。

ここに、関係各位のご協力のもと、コ・フェスタ 2024 の実施報告書がまとまりましたので、ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、コ・フェスタ 2024 にご参加いただきましたコアイベント、オフィシャルイベント、パートナーイベントの主催者・後援者、また百人委員会各企業様および関係者の皆様方の多大なるご協力に重ねて御礼申し上げます。

1-ii 事業概要

■事業目的

日本のアニメ、マンガ、映画、音楽等のコンテンツは、クールジャパンを代表する要素であり、今後も更なる成長分野として期待されている。この成長を継続し、発展させていくためには、コンテンツの海外展開を通じた市場を拡大するとともに、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションを促進し、関連産業への波及を生み出していくことが重要である。このような観点から、本事業では、日本コンテンツに係るイベントのネットワーク構築を行い、コンテンツを主軸としたオープンイノベーションの在り方等を検討し、国内外に向けて情報発信することで、日本コンテンツの市場拡大につなげることを目的とする。

■実施体制

本事業は特定非営利活動法人映像産業振興機構（VIPO）が経済産業省から受託した令和5年度「我が国の文化芸術コンテンツ・スポーツ産業の海外展開促進事業（コンテンツ産業の海外展開等支援）（JLOX+）」の一環である。特定非営利活動法人映像産業振興機構がコ・フェスタ実行委員会、コ・フェスタ実行本部を設置し、本事業の検討と運営を行なった。

●コ・フェスタとは

コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）とは、日本が誇るゲーム、アニメ、マンガ、キャラクター、放送、音楽、映画といったコンテンツ産業およびファッション、デザイン等コンテンツと親和性の高い産業に関わる各種イベントを効果的に海外に発信するための、海外発信力強化支援プロジェクトである。

名 称：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）2024

主 催：コ・フェスタ（JAPAN国際コンテンツフェスティバル）実行委員会

開催場所：日本各地および海外

2023年度参加イベント：国内外32イベント

●取組内容

・イベント連携

イベント間の協力体制の促進のためコ・フェスタ実行委員会を実施し、各イベント主催者間やコンテンツ産業と他産業との連携のための情報共有等を図った。

■運営組織

●実行委員会 コンテンツ系各業界および関係省庁、関係団体からの委員で構成する。

●実行本部 実行委員会の方針のもとに、事業の運営、統括を実施する。



副委員長 依田 巽



副委員長 重延 浩



副委員長 松谷 孝征

【委員長】

迫本 淳一	さこもと じゅんいち	松竹株式会社 代表取締役会長
-------	------------	----------------

【副委員長】

依田 巽	よだ たつみ	一般社団法人 日本経済団体連合会 幹事 (ギャガ株式会社 代表取締役社長 CEO)
重延 浩	しげのぶ たく	株式会社テレビマンユニオン 会長 ゼネラルディレクター 取締役
松谷 孝征	まつたに たかゆき	特定非営利活動法人 映像産業振興機構 理事長 (株式会社手塚プロダクション 代表取締役社長)

【委員】

片岡 進	かたおか すずむ	独立行政法人 日本貿易振興機構 (ジェトロ) 副理事長
浪越 徳子	なみこし のりこ	一般財団法人 デジタルコンテンツ協会 専務理事
山下 直久	やました なおひさ	株式会社 KADOKAWA 取締役 代表執行役
稲葉 延雄	いなば のぶお	日本放送協会 会長
遠藤龍之介	えんどう りゅうのすけ	一般社団法人 日本民間放送連盟 会長
島谷 能成	しまた よししげ	一般社団法人 日本映画製作者連盟 代表理事 (会長)
村松 俊亮	むらまつ しゅんすけ	一般社団法人 日本レコード協会 会長
野間 省伸	のま よしのぶ	株式会社講談社 代表取締役社長
辻本 春弘	つじもと はるひろ	一般社団法人 コンピュータエンターテインメント協会 会長
安藤 裕康	あんどう ひろやす	公益財団法人 ユニジャパン 理事/ 東京国際映画祭 チェアマン
三宅 正彦	みやけ まさひこ	一般社団法人 日本ファッション・ウィーク推進機構 理事長
矢内 廣	やない ひろし	ぴあ株式会社 代表取締役社長

守山 宏通	もりやま ひろみち	内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長
山碕 良志	やまざき りょうじ	総務省 情報流通行政局 官房審議官 (情報流通行政局担当)
金井 正彰	かない まさあき	外務省 大臣官房 (外務報道官・広報文化組織) 国際文化交流審議官
中原 裕彦	なかはら ひろひこ	文化庁 内閣官房内閣審議官 (文部科学戦略官・文化戦略官)
江澤 正名	えざわ まさな	経済産業省 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官
中野 岳史	なかの たけし	国土交通省観光庁 国際観光部 部長
江村 信彦	えむらの ぶひこ	東京都 産業労働局観光部 部長

【監事】

島岡 唯信	しまおか ただのぶ	一般社団法人 日本映画テレビ技術協会 専務理事
福浦 与一	ふくうら よいち	一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟 理事長

1-iii コ・フェスタ2024 イベント一覧

コアイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	東京ゲームショウ 2024	ビジネスデー：9月26日(木)・27日(金) パブリックデー：9月28日(土)・29日(日)	幕張メッセ
2	第37回東京国際映画祭(TIFF)	10月28日(月)～11月6日(水)	TOHOシネマズ 日比谷、TOHOシネマズ シャンテ、丸の内ピカデリー、丸の内TOEI、角川シネマ有楽町、シネスイッチ銀座、ヒューマントラストシネマ有楽町、よみうりホールなど
3	TIFFCOM 2024	10月30日(水)～11月1日(金)	東京都立産業貿易センター浜松町館
4	第21回東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)	11月5日(火)～7日(木)	渋谷ストリームホール、他
5	AnimeJapan 2025	パブリックデー：2025年3月22日(土)・23日(日) ビジネスデー：2025年3月24日(月)・25日(火)	東京ビッグサイト

オフィシャルイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	KYOTO CMEX 2024	2024年7月～2025年3月	みやこめっせ(京都市勧業館)、京都国際マンガミュージアム、京都商工会議所、京都文化博物館、東映京都撮影所、松竹撮影所、東映太秦映画村など
2	Rakuten Fashion Week TOKYO 2025 S/S・A/W	2025 S/S：9月2日(月)～7日(土) 2025 A/W：2025年3月10日(月)～15日(土)	渋谷ヒカリエ・表参道ヒルズ 他
3	CEATEC 2024	10月15日(火)10:00～12:00(プレミアムタイム) 10月15日(火)12:00～18日(金)17:00(一般公開)	幕張メッセ 国際展示場/国際会議場
4	国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2024 (東京ドラマアウォード 2024)	10月28日(月)	東京プリンスホテル
5	第51回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール	11月18日(月)～21日(木)	WITH HARAJUKU HALL
6	Tokyo Docs 2024	11月5日(火)～7日(木)	あうるすぽっと【豊島区立舞台芸術交流センター】
7	Inter BEE 2024	11月13日(水)～15日(金)	幕張メッセ 国際展示場/国際会議場
8	INTER BEE IGNITION × DCEXPO	11月13日(水)～15日(金)	幕張メッセ
9	第11回ロボット大賞	9月18日(水)～20日(金)	東京ビッグサイト 東ホール
10	東京アニメアワードフェスティバル2025	2025年3月7日(金)～10日(月)	東京・池袋

パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	第46回ぴあフィルムフェスティバル2024	9月7日(土)～21日(土)	国立映画アーカイブ
2	京都国際マンガ・アニメフェア 2024	9月21日(土)・22日(日)	みやこめっせ・ロームシアター京都、京都国際マンガミュージアム
3	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭 2024	スクリーン上映：2024年7月13日(土)～21日(日) オンライン上映：2024年7月20日(土)～24日(水)	SKIPシティ 映像ホール、多目的ホールほか
4	第40回 ATP 賞テレビグランプリ	8月8日(木)	東京プリンスホテル 2階 プロビデンスホール
5	第49回湯布院映画祭	8月22日(木)～25日(日)	ゆふいん ラックホール
6	きものサローネ 2024	10月26日(土)・27日(日) 10:00～18:00	東京国際フォーラム ホールE1(地下1階)
7	第20回 吉祥寺国際アニメーション映画祭	2025年2月21日(金)～23日(日・祝)	武蔵野公会堂
8	第16回京都ヒストリカ国際映画祭	12月3日(火)～8日(日)	京都文化博物館ほか
9	MPTE AWARDS 2024 第77回 表彰式	11月1日(金)	時事通信ホール
10	映文連 国際短編映像祭「映文連アワード 2024」	11月27日(水)～29日(金)	表彰式：国立新美術館講堂、上映会：ユーロライブ
11	ヨコハマ・フットボール映画祭 2024	10月12日(土)～18日(金)	かなつくホール、シネマ・ジャック&ベティ
12	CP'2025	2025年2月27日(木)～3月2日(日)	パシフィコ横浜
13	コンテンツ東京 2024 秋	11月20日(水)～22日(金)	幕張メッセ
14	JVA Festa 2024 - 美事祭 -	11月27日(水)～12月1日(日)	調布市グリーンホール

海外パートナーイベント

	イベント名	開催期間	主な開催場所
1	HYPER JAPAN Festival 2024	7月19日(金)～21日(日)	OLYMPIA EVENTS
2	バンコク日本博 2024	8月30日(金)～9月1日(日)	サイアムパラゴンショッピングセンター 5階 パラゴンホール
3	Anime Festival Asia Singapore 2024 (AFASG24)	11月29日(金)～12月1日(日)	サンテック シンガポール インターナショナル コンベンション&エキジビション センター

1-iv 百人委員会 企業一覧

コ・フェスタを広く経済界から支援するため2007年に設立。
コンテンツ産業とその他の産業との連携及びグローバル展開の強化を目的とする。

■百人委員会 委員長

MS & AD インシュアランスグループ ホールディングス株式会社 取締役会長 柄澤 康喜

■委員一覧 百人委員会就任企業 89 社

株式会社 IHI	株式会社テレビ朝日
株式会社 ADK エモーションズ	テレビ大阪株式会社
AOI TYO Holdings 株式会社	株式会社テレビ東京
株式会社 朝日新聞社	株式会社 電通
株式会社 IMAGICA GROUP	東映株式会社
ウシオライティング株式会社	東映アニメーション株式会社
MS & AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	東海テレビ放送株式会社
株式会社 NHK エンタープライズ	東宝株式会社
NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン 合同会社	株式会社東北新社
沖電気工業株式会社	株式会社トーセ
株式会社 KADOKAWA	株式会社 トーハン
株式会社 カプコン	TOPPANホールディングス株式会社
関西テレビ放送株式会社	名古屋テレビ放送株式会社
株式会社 木下グループ	日活株式会社
ギャガ株式会社	日揮ホールディングス株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	株式会社 日経BP
キリンホールディングス株式会社	株式会社日本経済広告社
キングレコード株式会社	株式会社 日本経済新聞社
株式会社クオオラス	日本コロムビア株式会社
株式会社コーエーテクモゲームス	日本テレビ放送網株式会社
株式会社 講談社	日本電気株式会社
コダック合同会社	日本航空株式会社
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	野村ホールディングス株式会社
株式会社ゴンゾ	株式会社 博報堂
株式会社サンリオ	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
株式会社 CBC テレビ	株式会社 バップ
松竹株式会社	株式会社 バンダイナムコホールディングス
株式会社レゾナック・ホールディングス	ぴあ株式会社
スカパーJSAT 株式会社	株式会社ヒューマックスシネマ
株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス	株式会社フォーライフ ミュージックエンタテインメント
住友化学株式会社	株式会社フジテレビジョン
住友商事株式会社	株式会社ボニーキャニオン
セイコーエプソン株式会社	株式会社ホリプロ
ソニーグループ株式会社	株式会社 毎日新聞社
ソニーPCL 株式会社	株式会社毎日放送
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	株式会社みずほフィナンシャルグループ
大日本印刷株式会社	株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ
株式会社大和証券グループ本社	森ビル株式会社
株式会社タカラトミー	吉本興業株式会社
中京テレビ放送株式会社	株式会社読売新聞グループ本社
株式会社 TBS テレビ	読売テレビ放送株式会社
株式会社 テイチクエンタテインメント	琉球放送株式会社
デジタルハリウッド大学	株式会社ワーナーミュージック・ジャパン
株式会社手塚プロダクション	株式会社 WOWOW
テレビ愛知株式会社	

(2024年8月1日時点 五十音順)

コ・フェスタの最高意思決定機関として、上申された事項を審議、決議。コ・フェスタ各イベントの実施および広報活動ならびに各業界イベントとの協力体制の確認と強化を行なった。コ・フェスタ事業の目的を実行委員で共有し、意思統一を図ることができた。

●開催概要

日 時：2024年7月4日（木） 15:00-16:15

場 所：野村コンファレンスプラザ日本橋6F大ホール

参加者：実行委員、各イベント主催者、百人委員、実行本部など42人

司 会：コ・フェスタ実行本部 映像産業振興機構・事務局次長 槇田寿文

議 長：コ・フェスタ実行委員長 迫本淳一

●会議内容

1 開会の挨拶

特定非営利活動法人映像産業振興機構 専務理事・事務局次長 市井三衛

2 審議事項

・第1号議案 コ・フェスタ2024実行委員選任の件

・第2号議案 イベント承認の件

2024年7月4日時点のコアイベント5、オフィシャル10イベント、パートナー14イベント、海外パートナー3イベントの承認。コアイベントとオフィシャルイベントの各主催者からイベント概要説明が行われた。

3 報告事項

・コ・フェスタ百人委員会についての説明

4 関係各省庁よりコ・フェスタ2024海外展開支援へのメッセージ

内閣府、総務省、外務省、文化庁、経済産業省、国土交通省観光庁、東京都の7名からコ・フェスタ事業継続の重要性を込めたメッセージを頂いた。

内閣府 知的財産戦略推進事務局 次長

総務省 情報流通行政局 官房審議官（情報流通行政局担当）

外務省 大臣官房 文化交流・海外広報課 事業総括

文化庁 内閣官房 内閣審議官

経済産業省 商務・サービスグループ 商務・サービス政策統括調整官

国土交通省 観光庁 国際観光部 部長

東京都 産業労働局 観光部振興課 地域活性化担当課長

守山 宏通

山崎 良志

高屋 知志

中原 裕彦

江澤 正名

中野 岳史

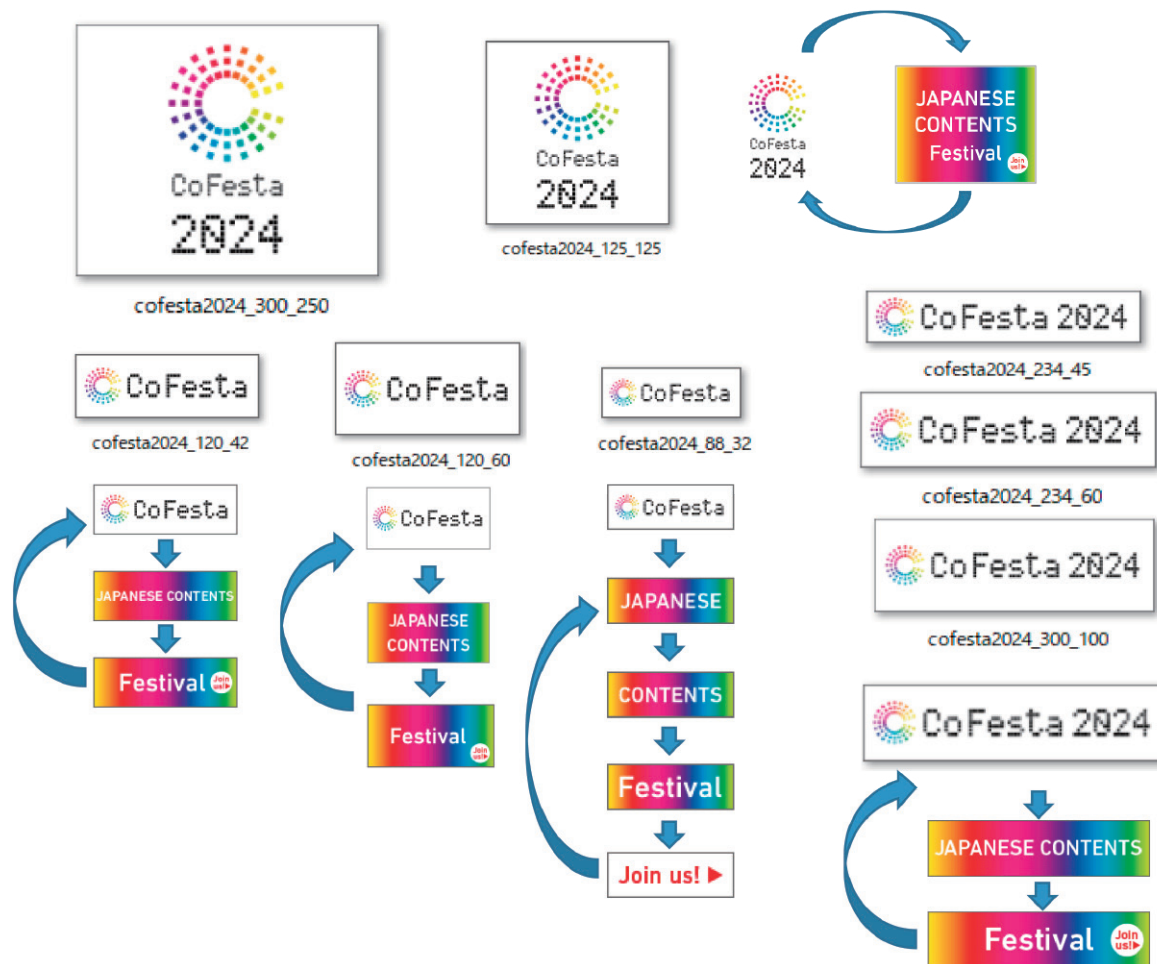
石橋 和之



3 プロモーション

■広報制作物

アニメーションGIFバナー：8サイズ



JPGバナー：8サイズ



コ・フェスタ 2024 ロゴのデザインの監修・制作を、クリエイティブスタジオの(株)OXCEに委託した。
デザイン：(株)OXCE

4- i コ・フェスタ2024 コアイベント

コ・フェスタ コアイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等において、コ・フェスタの集中的な支援による効果が期待できるイベントとして、コ・フェスタ実行委員会が認定したイベントである。2024 年度は 5 イベントが認定された。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 東京ゲームショウ 2024 |
| 2 | 第 37 回東京国際映画祭 (TIFF) |
| 3 | TIFFCOM 2024 |
| 4 | 第 21 回東京国際ミュージック・マーケット (21stTIMM) |
| 5 | AnimeJapan 2025 |

コアイベント

東京ゲームショウ2024

TOKYO GAME SHOW 2024

会 期：2024年9月26日（木）～29日（日）
会 場：幕張メッセ
主 催：（一社）コンピュータエンターテインメント協会
共 催：（株）日経BP／（株）電通
後 援：経済産業省
対 象：コンピュータエンターテインメント業界関係者および一般
公式サイト URL：https://tgs.cesa.or.jp

総来場者数（参加数）：274,739 人
出展社数：985 社 過去最多
内 訳：（国内出展社数：450 社 海外出展社数： 535 社）
出展参加国と地域数：44 の国と地域
ビジネスマッチング
・登録アカウント数：8,967（2023 年 7,786）
・商談申込数：41,185（2023 年 19,123）
・商談成立数：3,669（2023 年 2,355）
プレス社数：延べ1,468 社（2023 年 1,436 社）
内訳（国内プレス社数：延べ895 社 海外プレス社数：延べ573 社）

■開催内容

出展社数は985社と昨年の787社を大きく更新し（前年比：125%増）、またリアル会場の出展小間数も3,252小間と過去最高を記録。また来場者数においても、274,739人が幕張メッセに集い、1,000社近くの出展社が提供するコンテンツに一喜一憂するゲーム一色の4日間となった。

また、主催者および出展社による公式番組の配信、バーチャル会場の「TOKYO GAMESHOW Digital World」、Steam特設サイトなどのオンライン企画も用意し、最大規模のハイブリッド開催となった。

オンライン企画として2020年から実施している公式番組は、TGSのYouTube公式チャンネルやX（Twitter）公式アカウント、ニコニコやSteamのTGS特設ページなどさまざまなプラットフォームで配信。中国向けにはDouYu、bilibili、Douyinといった動画メディア、欧米向けには世界最大級のゲームメディアであるIGNと連携して配信した。

ほとんどの番組は日本語版に加えて、英語の同時通訳版や字幕付き版も用意。一部の番組は、中国語の同時通訳付きも配信し、海外の方々にも多数で視聴いただいた結果、ライブ配信とアーカイブ配信を合わせた総視聴数は1,596万回となった（期間：9月26日～29日）。

4年目となったTOKYO GAMESHOW Digital World（旧：TGSVR）も9月20日（金）からオープン。10月6日（日）までの17日間開催した。来場者はゲームの世界に入り込み、クエストやシアターを楽しみながら、旅するように会場をまわることができ、トータル来場者数は117,090人、平均滞在時間は約77分と多くの方に参加頂いた。

ビジネスマッチングでは、今年もTGSビジネスマッチングシステムを稼働。同システムは出展社やビジネスデイ来場者であれば無償で登録・利用できるシステムとなっており、出展社の目的に沿ったマッチングをサポートしている。商談成立数は3,669と前年の2,355を大きく上回ったほか、システムを利用した国・地域数は78カ国・地域（2023年 63カ国・地域）となり、日本市場の注目度の高さを示す結果となった。



東京ゲームショウ2024

TOKYO GAME SHOW 2024

世界中で拡大を続けるゲーム市場において、TGS2024は「ゲームで世界に先駆ける。」をテーマに、過去最大となる出展社数、出展小間数となった。985の出展社数のうち、535社が海外からの出展社であり、来場者においても78の国・地域から参加しており、海外にとって日本が依然、重視されている市場であることを示す結果となった。また、ゲームにかかわるコンテンツはますます多様化しており、ゲームやデバイスの周辺機器のみならず、ゲームをするための環境やゲーム・エンターテインメント都市構想など非常に多岐にわたっており、ゲームビジネスに新規参入をしたいと考えている企業が増えていると同時に、その多彩なコンテンツが東京ゲームショウの魅力をさらに高める結果となっている。

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

①メディアブリーフィングの実施

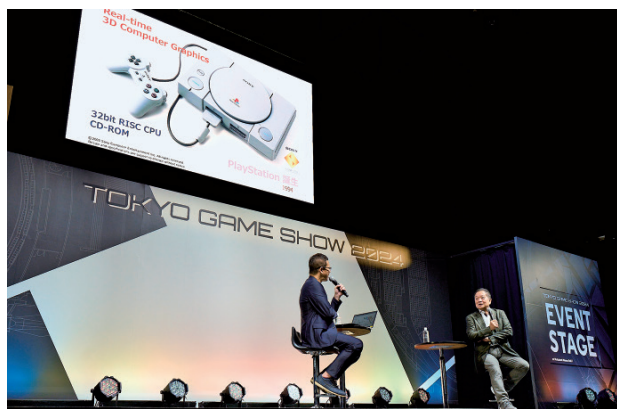
報道関係者の皆様に対し、TGS2024会期前に今年のTGSの特長や見どころを紹介し、TGS会期中の取材促進等に寄与することを目的にメディアブリーフィングを実施。主催・共催からメディアに対する情報発信を強化した。

②SNSでのカウントダウン企画

9月1日より出展各社の協力のもと、9月26日からの開幕に向けたカウントダウンSNS投稿企画を実施。あらかじめ割り振られた日程において、各社がIPを活用するなど工夫を凝らしたSNS投稿を行い、開幕までの機運を高めた。

③会場LIVEカメラ

開催期間中、会場内に複数台のLIVEカメラ（定点カメラ）を設置し、リアルタイム配信を実施。盛況な会場の様子を世界中に発信した。



コアイベント

第37回東京国際映画祭

東京国際映画祭 TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2024

会 期：2024年10月28日（月）～11月6日（水）
会 場：日比谷・有楽町・丸の内・銀座地区
主 催：（公財）ユニジャパン
共 催：経済産業省／国際交流基金（アジア文化交流強化事業）／
東京都（コンペティション部門、ユース部門）
後 援：総務省／外務省／観光庁／千代田区／中央区／（独）日本貿易振興機構／
国立映画アーカイブ／（一社）日本経済団体連合会／東京商工会議所／
（一社）日本映画製作者連盟／（一社）映画産業団体連合会／
（一社）外国映画輸入配給協会／
モーション・ピクチャー・アソシエーション（MPA）／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
（特非）映像産業振興機構／（一社）日本映像ソフト協会／
（公財）角川文化振興財団／（一財）デジタルコンテンツ協会／
（一社）デジタルメディア協会
助 成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画祭支援事業）
対 象：一般
公式サイト URL：tiff-jp.net

総来場者数（参加数）：2,607,092人（オンライン参加も含む）
出展参加国と地域数：110の国と地域

■開催内容

日本で唯一の国際映画製作者連盟公認の国際映画祭として、才能溢れる新人監督から熟練の監督までを対象に、世界中から厳選されたハイクオリティなプレミア作品を集結させて、メインとなる長編コンペティション部門など様々な部門で国内外に発信。映画上映以外に学生、プロフェッショナル、ビジネス来場者を対象とした貴重なセミナー、シンポジウムやワークショップなども開催し、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルとして人と映画、ビジネスのリンケージを実現している。



© 2024 TIFF



© 2024 TIFF



© 2024 TIFF

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

「世界との交流（国際交流）」「未来の人材育成」「女性への視座」を三本柱として取り組んだ。

「世界との交流」では世界の映画人との対談の「交流ラウンジ」等のイベントで世界各国から監督、俳優、プロデューサー、映画祭プログラマーや映画を学ぶ学生など多種多様なゲストを招へいし、交流を図った。

「未来の人材育成」では：中学生向けの映画制作ワークショップ「TIFFティーンズ映画教室」や世界の映画教育に携わる方々を招いたシンポジウムを開催、黒沢清監督によるアジアの学生向けのマスタークラス、エシカル・フィルム賞の審査委員への学生応援団の起用など様々な形で人材育成を展開した。第34回東京国際映画祭Amazon Prime Video テイクワン賞受賞者、金允洙（キム・ユンス）監督の長編デビュー作『あるいは、ユートピア』は今年の東京国際映画祭に凱旋上映も果たした。

「女性への視座」では東京都との連携で「ウィメンズ・エンパワーメント部門」という新部門を設立し、新しい女性のシニア・プログラマーも誕生させた。現在活躍している女性監督たちがこれまでとこれからを語り合うシンポジウム「ウィメンズ・エンパワーメントシンポジウム 女性監督は歩き続ける」も開催し、好評を博した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

住友商事の協力で「エシカル・フィルム賞」を実施。齊藤工さんを審査委員長にむかえ、現役大学生によるPRチームである学生応援団からの学生の審査委員3名とエシカル・フィルム賞の受賞作を審査し、『ダホメ』に授賞を決定した。その審査過程も公式サイトで公表するなど、エシカルな取り組みをした。



© 2024 TIFF



© 2024 TIFF



© 2024 TIFF

会 期：2024年10月30日（水）～11月1日（金）
 会 場：東京都立産業貿易センター 浜松町館
 主 催：経済産業省／総務省／（公財）ユニジャパン
 後 援：（一社）映画産業団体連合会／（一社）外国映画輸入配給協会／（一社）コンピュータエンターテインメント協会／
 （一社）デジタルコンテンツ協会／（協組）日本映画製作者協会／（一社）日本映画製作者連盟／
 （一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本経済団体連合会／（一社）日本動画協会／日本貿易振興機構（ジェトロ）／
 （一社）日本民間放送連盟
 対 象：映画、テレビ、アニメーション、キャラクター・ライセンス／商品化、原作（小説／コミック）、出版、モバイル／インター
 ネット、ホームエンターテインメント（DVD/Blu-ray）、イベント／コンサート、ゲーム、フィルムコミッション／フィルム
 ファンド、ポストプロダクション／翻訳、サービス・プロバイダー、タレント・エージェンシー、業界団体、官公庁／大
 使館、地方自治体などのコンテンツホルダー及び関連団体・企業
 公式サイト URL：https://tiffcom.jp/

総来場者数（参加数）：4,088人（前年対比6% UP）
 内 訳：（国内入場者数（参加数）：2,366人 海外入場者数（参加数）：1,722人）
 出展社数：283社
 内 訳：（国内出展社数：116社 海外出展社数：167社）
 出展参加国と地域数：38の国と地域
 ビジター数：1,071人
 内 訳：（国内ビジター：419人 海外ビジター：652人）
 商談件数：6,301件
 プレス社数：119社

■開催内容

東京国際映画祭（TIFF）と併催される、アジアを代表するビジネス・コンテンツマーケットとして、21回目を迎えた2024年は10月30日～11月1日の3日間、東京都立産業貿易センター浜松町館に、映画、テレビ、シリーズ、アニメなど多彩なコンテンツホルダーと世界各国の有力バイヤーが一堂に会した。また、国際共同製作、業界最新情報セミナー、ネットワーキングなどを目的とした業界関係者も多数訪れ、前年比本6%増の計4千人以上の参加社で賑わった。

セミナーは3会場・16企画（招待制1企画を含む）と大幅に拡充し、各国コンテンツ業界のキーパーソンやクリエイターらが多数登壇した。アジア・日本を中心とした映画、TV、シリーズ、アニメなど各コンテンツジャンルの最新動向、日本コンテンツの海外展開、映画業界における生成AI、人気俳優によるトークなど、様々な立場のプレイヤーに向けたバラエティー豊かなラインナップを揃え、延べ2千人を超える聴講者が詰めかけた。

2024年は賞レースやグローバル配信プラットフォームでも日本やアジアを舞台・テーマとしたコンテンツが話題を席巻し、需要の高まりが加速した。日本のコンテンツが勢揃いし、さらにアジア諸国にとっても重要な市場であるTIFFCOMには、中国、香港、韓国、タイ、台湾などのアジア圏からも多数の強力なコンテンツや注目のゲストが集まった。各国機関や有力コンテンツホルダーがパビリオンやセミナー、ブースでそれぞれ魅力をアピールし、世界の大手メディアでも例年以上に大きく取り上げられた。



■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

TIFFCOM 2024では国際的な映像制作を支援する取り組みをさらに強化した。長編営業企画の資金調達マーケット「Tokyo Gap-Financing Market (TGFM)」には、事務局が選出した15企画に加え、日伊映画共同制作協定の発効をうけてイタリアより5企画が特別選抜された。日本の出版物の映像化権に特化した「Tokyo Story Market (TSM)」は、第2回目の開催となり、参加出版社が増加。いずれもTIFFCOMが世界各国のプロデューサーや出資者らとマッチングをし、前年以上に多くのミーティングが行われた。その他、若手の公募企画ファイナリストとKorean Academy of Film Arts・東京藝術大学共同のワークショップ優秀者が参加した、MPAとデジタルハリウッド大学との共催のピッチングコンテストやイタリア、香港、韓国など共同製作や海外ロケに関する様々なセミナーなどで、多岐にわたり国境を越えた企画や海外展開を後押しした。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

東京国際映画祭とは会場を直接つなぐシャトルバスを運行することで、両会場の行き来をしやすくし、IDパスのQRコード連携によって、両イベントへのアクセスを可能にし、映画祭で行われている業界関係者用の試写や、TIFFCOMのセミナーに参加できるようにした。また、映画祭の公式出品作品は、希望者による事前申し込みを経て、セールス活動ができる「TIFFセラーブース」をTIFFCOM会場内に用意した。国内外のプレス関係者の登録は映画祭とTIFFCOMを一本化することで、より両会場で行われていることの情報の風通しを良くし、どちらの会場でも取材ができるよう利便性を高めたことで、今年のTIFFCOMは特に海外からのプレスのアプローチが多かった。



第21回東京国際ミュージック・マーケット (21stTIMM)



会 期：2024年11月5日（火）～7日（木）
 会 場：商談会：渋谷ストリームホール
 セミナー：グーグル6階会場（渋谷ストリーム内）
 ライブ：Spotify O-EAST (11/5-6)、Veats Shibuya (11/7)
 主 催：経済産業省／（一財）日本音楽産業・文化振興財団
 後 援：（一社）コンサートプロモーターズ協会／（一社）私的録音録画補償金管理協会／
 （一社）日本音楽事業者協会／（一社）日本音楽出版社協会／
 （一社）日本音楽制作者連盟／（一社）日本音楽著作権協会／
 （公社）日本芸能実演家団体協議会／（独）日本貿易振興機構／
 （一社）日本レコード協会
 対 象：国内外の音楽業界関係者
 公式サイト URL：<https://www.timmjp.com>



総来場者数（参加数）：4,289人
 内訳：（国内入場者数（参加数）：4,113人 海外入場者数（参加数）：176人）
 ビジネスエリアの来場者数（参加数）：2,183人
 内訳：（国内入場者数（参加数）：2,007人 海外入場者数（参加数）：176人）
 出展社数：25社
 内訳：（国内出展社数：23社 海外出展社数：2社）
 出展参加国と地域数：21の国と地域
 バイヤー数：176人
 内訳：（国内バイヤー：0人 海外バイヤー：176人）
 商談件数：113件
 成約金額：260,000USドル
 プレス社数：9社
 内訳（国内プレス社数：9社 海外プレス社数：0社）

■開催内容

日本音楽の海外進出を支援する国際見本市“東京国際ミュージック・マーケット（TIMM）”は、21回目の開催となった今年度、キャッチコピーに“GO GLOBAL”を掲げ、開催地を日本のポップカルチャーの聖地の一つ「音楽の街」渋谷に戻して11月5日～7日の3日間開催した。会場はTIMMのプログラム毎に3会場を使い、商談会・ネットワーキングを渋谷ストリームホールで、ビジネスセミナーは渋谷ストリーム内のグーグルにて、ショーケースライブは11/5～6の2日間をSpotify O-EASTで、11/7はVeats Shibuyaで行い、各プログラムとも盛況を収めた。また、会場の変更のみならず、各プログラムにおいても内容の強化を図っており、大幅に増加した海外バイヤー等の参加者数や、近年招聘強化を進めてきたPRエージェントやイベント主催者などを中心に新規参加者も多かったことから、TIMMに参加した出展者やバイヤーから高い評価を得た。なお、年間を通して稼働しているオンラインのビジネスマッチングサイト「TIMM ONLINE」では、サイトに実装するメッセージ機能を使っのTIMM会場での商談のアポイント取りや会期後の参加者間の事後フォロー、及びセミナー・ライブのアーカイブ配信も行っており、参加者の利便性も向上させている。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

1) 音楽系エージェント、キュレーター等の海外からの招聘強化

海外進出における音楽業界のビジネスモデル（収益化）がパッケージ等のフィジカルのライセンスビジネスからサブスクリプションの契約を経ていかに楽曲の再生回数を上げていくか、というフェーズに移行している事を受け、TIMMの招聘バイヤーについても、これまでは音源のライセンス契約を目的とするバイヤーや興行イベントの主催者らが中心であったが、近年は現地のプロモーションに直結するエージェントやキュレーター等の招聘強化にも取り組んでおり、今年度は海外バイヤーの参加者数も176人と前年（136人）に比べ大きく増加した。また、毎回参加している出展者から希望の多い「新規の人脈作り」の要望に応えるべく、今年度初めて参加した「新規バイヤー」は86名となり、共に参加者から好評を得た。

2) 商談会・ネットワーキング環境の向上

今年度の新たな取り組みとしては商談ブースの改善を行っており、昨年度は会場の広さの問題により各ブースが手狭だったことを受け、スタンダードプランを3m×3mに、ライトプランを2m×2mに拡大すると共に、各ブース間には壁を設置して他ブースへの音漏れも防止した。また、フリーの商談スペースも拡大。4階の総合受付フロア全体をTIMM参加者が自由に使えるスペースとして開放し、両日とも活発な商談が行われた。なお、4階のフリーの商談スペースは近年海外で人気定着した日本のシティポップをテーマに演出。音楽ライターの栗本齊氏が選定したシティポップのアナログ盤のジャケットギャラリーや選曲した各サブスクリプションサービスのプレイリストをBGMにして展開。海外バイヤーらはギャラリーを写真に収めるなど、さながら「シティポップカフェ」の空間も堪能し、日本コンテンツのクールさも持ち帰ってもらっている。

第21回東京国際ミュージック・マーケット(21stTIMM)



3) ショーケースライブの内容強化

ショーケースライブの出演アーティスト選定において、今年度も出展の有無に関わらずエントリー可能とし、選定基準はアーティストの過去実績や今後の海外展開計画に基づいて出演者を決定した。これにより、すでに海外展開を強化しているアーティストや国内で人気上昇しているアーティストのエントリーが増えると共に、ライブに対する海外バイヤー等からの注目度も高まる事が出来ており、日本の最新J-POPシーンを国際的にアピールする場としても機能した。また、国際マーケットイベントとしてのTIMMの価値を高めるべく、今年度の新たな取り組みとしてVeats Shibuyaで行った最終日(11/7)に、YouTubeと連携してアジア地域からアーティストを招いた「ASIA DAY supported YouTube Music Night」を実施した。

なお、5日のライブ終了後に海外バイヤー等とライブ出演者とのミート＆グリーツを実施。ライブの熱が冷めやらぬまま、TIMM参加者間の懇親やネットワーク作りをサポートした。また、6日および7日の出演アーティストについては、6日に実施したウェルカムパーティーに参加いただき、上記同様にTIMM参加者間の懇親やネットワーク作りを行っている。

4) セミナー内容の強化について

セミナーテーマの選定に関しては、毎年音楽業界の海外進出に関する注目度の高いテーマを中心にピックアップし、各方面のオピニオンリーダーらに講師を依頼して実施しており、毎年好評をいただいていた。今年度についても同様にテーマの決定や講師のブッキングを続けると共に、キーノートには海外展開で実績を上げた日本人アーティストのリナ・サワヤマ氏が登壇し、自らの体験をもとに日本音楽の海外展開の可能性について語っていただいた。なお、今年度は会場の変更によりセミナーの実施本数を増やす事が可能となり、会期中、全12本(前年度は6本)のセミナーやプレゼンテーションを行い、各セミナーとも好評を得た。

5) 新人・若手クリエイターが活躍できる機会を創出するビジネスマッチングスキームの確立

出展プランの「ライトプラン(個人プラン)」を継続展開し、新人・若手クリエイターが個人でもローコストで参加できるように配慮した。また、ショーケースライブの出演アーティストの選定については、前述の通り原則過去の実績や今後の海外展開計画等を評価ポイントとして選出しているが、実績等で劣る新人・若手アーティストに関しては、オープニングアクトとして出演枠を確保した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

●JETROとの連携

JETROと連携し、2024年9月26日～30日に「TIMM2024×JETRO 音楽コンテンツ・オンライン商談会」を実施した。

実施に際しては、出展者や招聘バイヤーへの告知面での相互協力も行っている。

●連携フリーライブの実施

イベント名：ストリートライブイベント「SHIBUYA OPEN LIVE 2024 AUTUMN」

当イベントは、インディーズアーティストの音楽活動を支援することを目的に実施されており、2019年に渋谷中央街で開催された「渋谷中央街 Music Street」や、2024年夏に開催されたSHIBUYA まちびらき 2024「OPEN LIVE」と同様に、渋谷の街なかにライブステージを設置して開催されている。TIMMと連携した今回はTIMM会期中の3日間、渋谷ヒカリエ、渋谷ストリーム、渋谷フクラス、渋谷サクラステージ、渋谷アクシュ、渋谷駅東口地下広場の計6カ所の会場で、未来に羽ばたくインディーズアーティスト50組以上が出演し、熱いライブを繰り広げた。

<開催概要>

- ・日時：2024年11月5日(火)～7日(木) 14:00～21:00
- ・会場：渋谷ストリーム前 稲荷橋広場、渋谷ヒカリエ 4F イベントスクエア、渋谷中央街渋谷フクラス前、渋谷アクシュ SHIBU スポット、渋谷サクラステージ SHIBUYA サイド 2F 桜丘広場、渋谷駅東口地下広場
- ・主催：(一社)渋谷再開発協会、(一財)渋谷区観光協会、東急(株)、東急不動産(株)
- ・協力：東京国際ミュージック・マーケット(TIMM)、(一社)渋谷駅前エリアマネジメント、渋谷ヒカリエ、渋谷ストリーム、渋谷フクラス/東急プラザ渋谷、渋谷サクラステージ、渋谷アクシュ、渋谷中央街
- ・制作協力：(株)エググス、MOTCHAN NO HEYA-もっちゃんの部屋
- ・企画制作：(株)東急エージェンシー
- ・URL：<https://biz.shibuyabunka.com/watch/29/>



AnimeJapan 2025



会 期：[パブリックデイ] 2025年3月22日(土)・23日(日)
 [ビジネスデイ] 2025年3月24日(月)・25日(火)
 会 場：[パブリックデイ] 東京ビッグサイト
 [ビジネスデイ]
 主 催：(一社) アニメジャパン
 協 賛：マンガプロダクションズ/dアニメストア/TOHO animation/TOHO animation STORE/
 光が死んだ夏(KADOKAWA)/SANKYOフィールズ(株)/Animelo Summer Live/東映アニメーション(株)/ABEMA
 後 援：経済産業省/(一社)日本動画協会/コミック出版社の会
 対 象：一般来場者/国内・海外ビジネス来場者/招聘海外バイヤー/アニメ関連企業・団体ほか
 公式サイト URL：<https://www.anime-japan.jp/>

総来場者数(参加数)：152,400人(見込み)
 出展社数：パブリック116社 ビジネス64社(延べ)

■開催内容

国内外を代表するアニメ関連企業・団体・コンテンツが集結する世界最大級のアニメイベント『AnimeJapan 2025』が、過去最大規模で2025年3月22日(土)～25日(火)にビックサイトにて開催。

今回で12回目の開催となったAnimeJapan 2025パブリックデイは、過去最大規模となる116の出展社によるブースと、新たに設置されたWHITEステージを含む4つのAJステージにて合計52のステージイベントが開催。

人気施策となっているコスプレイヤーズワールドやファミリーアニメフェスタも過去最大規模で実施された。

そして、「パブリックデイ」の開催の翌日3月24日・25日の2日間、アニメコンテンツに関する商談や、情報収集に訪れるビジネス目的の来場者を対象とする「ビジネスデイ」も過去最大の出展社数を記録し、更なる充実した商談の場となった。

□パブリックデイ

日本を代表する多くのアニメ関連企業がリアルで出展。各出展ブースにて作品展示・映像上映・グッズ販売・ステージイベントなどを実施した。また、主催による様々な施策も実施され、多くの来場者が様々な形でアニメ文化を楽しむ姿が見受けられた。

4つのAJステージのほか、今年のAnimeJapan 2025のアンバサダーに就任した櫻坂46によるアンバサダーステージも開催された。

また、毎年恒例のコスプレイヤーズワールド、クリエイターにフォーカスしたProduction Works Gallery、ファミリーアニメフェスタなど、様々な展開を実施した。

・展開内容：出展ブース/AJステージ/オフィシャルグッズ販売/コスプレイヤーズワード/アニメ化してほしいマンガランキング/アンバサダーステージ、Production Works Gallery、ファミリーアニメフェスタなど



□ビジネスデイ

6年ぶりに東京ビッグサイト会議棟に戻ったビジネスデイでは国内外から多くのコンテンツホルダーやアニメ関連企業、団体が出展、ビジネス商談、ビジネスセミナー、出展社ピッチイベントなどを実施した。

日本国内・海外から多くのビジネス来場者に参加していただき、快適な商談環境の中で、出展社と活発な商談・情報交換が行われた。海外からは、AnimeJapanが独自に招聘した有力なバイヤーも数多く参加。国内アニメコンテンツの積極的な海外展開に関する商談が活発に行われた。また、恒例の主催施策として、初めてアニメビジネスに関わる方を対象としたアニメビジネスコンシェルジュを設置、異業種を含む多くのビジネス来場者のお問い合わせに対応した。

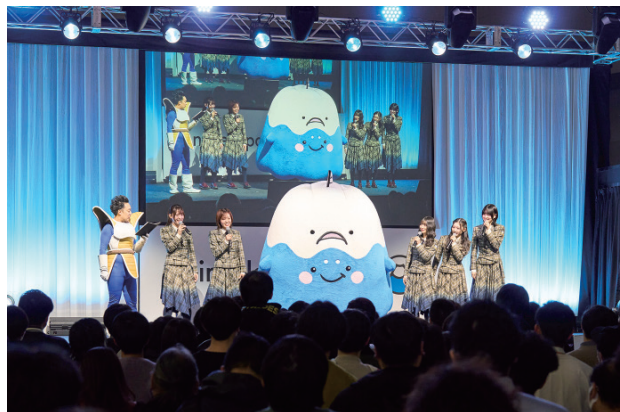
・展開内容：出展ブース／商談／ビジネスセミナー／アニメビジネスコンシェルジュ／アニメ作品・キャラクター紹介パネル／出展社ピッチイベント

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・ AnimeJapan 2025 のアンバサダーに就任した櫻坂 46 によるアンバサダーステージにて2日間で8プログラムを実施。
- ・ 総投票数、156,909票を集めた、「アニメ化してほしいマンガランキング 2025」の授賞式を初開催。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

今年も引き続き日本貿易振興機構（JETRO）様にご協力頂き、共催としてJETRO様が招聘する海外バイヤーと出展社とのビジネスマッチングを展開。



4-ii コ・フェスタ2024 オフィシャルイベント

コ・フェスタ オフィシャルイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性に富んだイベントで、その国際性及び規模等においてコアイベントに準じ、コ・フェスタ実行委員会が承認したイベントである。本年度は 10 イベントが認定された。

1 KYOTO CMEX 2024

2 Rakuten Fashion Week TOKYO 2025 S/S ・ A/W

3 CEATEC 2024

4 国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2024 (東京ドラマアウォード 2024)

5 第51回 日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

6 Tokyo Docs 2024

7 Inter BEE 2024

8 INTER BEE IGNITION × DCEXPO

9 第11回 ロボット大賞

10 東京アニメアワードフェスティバル2025

オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2024

KYOTO CMEX

1) 全体概要

会 期：2024年7月～2025年3月

会 場：みやこめっせ（京都市勧業館）／京都国際マンガミュージアム／京都文化博物館／東映京都撮影所／松竹撮影所／東映太秦映画村 他（オンライン視聴含む）

テーマ：「京都発コンテンツの祭典 ～京都が創る新しい世界—先端コンテンツのクロスメディア～」

主 催：KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

連 携：コ・フェスタ、京都学生祭典

対 象：国内外や京都のコンテンツ産業関係者、若手クリエイターやクリエイターを目指す学生など

参加者：3,360,395名（オンライン視聴含む） 2025.2.1現在

〔オフィシャルイベント：3,208,198名／パートナーイベント：152,200名〕

※昨年度：2,765,048名〔オフィシャルイベント：2,667,205名／パートナーイベント：97,843名〕

公式サイト URL：https://cmex.kyoto/

2) 個別事業概要

クロスメディア

●レセプション

開催日：9月20日（金）

会 場：東映太秦映画村

参加者：117名

内 容：コンテンツ業界及び関係する方々の分野横断的な人材交流と、KYOTO CMEXの取組紹介の場としてオープニングセレモニーを開催。アトラクションとして侍ショーを実施した。

●コンテンツクロスメディアセミナー

内 容：業界で活躍するトップリーダーによるセミナーを開催し、コンテンツビジネスの可能性と未来像を探った。

〈第1回〉

開催日：10月16日（水）

会 場：ハイアットリージェンシー京都

テーマ：デジタルによって変革するコンテンツ制作 ～わ!デジタルコンテンツってこうなんだ!～

講 師：小畑 正好 氏（3DCGアーティスト）

参加者：39名

〈第2回〉

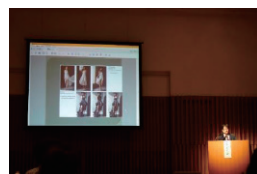
開催日：11月22日（金）

会 場：ANAクラウンプラザホテル京都

テーマ：生成AIの現在と未来

講 師：三上 洋 氏（ITジャーナリスト）

参加者：50名



●京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム

開催日：3月1日（土）

会 場：京都コンピュータ学院京都駅前校

出展数：17社

参加者：集計中

内 容：京都に本社やスタジオを持つアニメ・ゲーム等の制作事業者を集め、クリエイティブ業界に特化した就職説明会を開催。



●コンテンツパッケージ授業

開催日：9月28日（土）～1月11日（土）

会 場：キャンパスプラザ京都／京都国際マンガミュージアム

参加者：19名

内 容：コンテンツ分野に関する教育研究を推進している京都の諸大学が協力し、それぞれアート、デザイン、映画、マンガ、アニメ、ゲーム等の分野を分担してリレー講義することにより、京都から発展した日本の表現文化、映像文化を総合的に理解し、現状と展望を考える講義を実施した。

KYOTO CMEX 2024

KYOTO CMEX

●アニメプロジェクトGO-TAN！

□第6回古都コスプレ

開催日：9月21日（土）・22日（日）

会 場：お東さん広場 噴水広場付近

参加者：1,210名（コスプレ参加者210名）

内 容：アニメ・マンガ・ゲームのキャラクターに扮するコスプレパフォーマーによるダンス・歌・芝居・殺陣を中心としたイベントを開催した。

●京都太秦シネマフェスティバル

開催日：10月27日（日）、11月23日（土）・24日（日）

内 容：「映画のまち 京都太秦」を基盤とした「コンテンツコミュニティ」の形成を図った。

□キッズ・シネマスタジオ

開催日：10月27日（日）

会 場：東映太秦映画村

参加者：10名

内 容：撮影所の本物の設備を使って、プロの映画監督・撮影所スタッフの指導により、子どもたちが楽しい映画作りを体験し、映画作りの魅力や関心を高めた。

作 品：「キッズ☆新撰組 市中見廻りの巻」

□太秦上洛まつり

開催日：11月23日（土）・24日（日）

会 場：東映太秦映画村

参加者：7,000名（コスプレ参加者850名）

内 容：今回は「輝-Rumine-」をテーマに実施。京都発のコンテンツを中心としたブース出展や、歴史ジャンルの出展などのほか、大河ドラマ『光る君へ』の制作統括・内田ゆき氏をお迎えしてのトークイベント、VTuberによるトークショーや楽器演奏会など新たな取り組みも実施し、歴史創作コンテンツのクロスメディア発信拠点としての京都・太秦をPRした。



●京都デジタルアミューズメントアワード

表彰式：2月28日（金）予定

会 場：ホテル日航プリンセス京都

内 容：京都に縁のある、コンテンツ制作に意欲的に取り組む若手クリエイターやグループを表彰し、その活動を奨励・支援することにより、京都の培ってきた日本文化の発信や、京都のコンテンツ産業の振興を図る。

候補者：集計中

●京都アニものづくりアワード2024

開催日：（応募受付期間）5月13日（月）～7月12日（金）まで

（表彰式）9月21日（土） 15：50～17：00

会 場：京まふ会場（みやこめっせステージ）

応募総数：141点

内 容：国内各所で発表されたアニメ、マンガ、キャラクター等を活用した異業種コラボ（商品タイアップ、広告映像、クラフトデザイン、地域創生など）を紹介し、優れたものを表彰することで、よりクオリティの高いコラボコンテンツを増やしていくことを目的に開催。全141点の応募から、グランプリ1点を含め24点を表彰した。



映画・映像

●京都ヒストリカ国際映画祭

開催日：12月3日（火）～8日（日）

会 場：京都文化博物館／オンライン

参加者：2,057名

オンライントーク視聴回数：5,634回

内 容：歴史映画をテーマにした国際映画祭。京都文化博物館シアターで19本を上映したほか、VR映画の展示、監督等をゲストに招いたオンライントーク「夜のヒストリカ」をフリンジ企画として開催。また、立命館大学映像学部と連携し、プレイイベント「平安時代とアニメーション～時代を越えるミレニアムアニメーション～」を開催し、TVアニメ『平家物語』の上映に加え、法乗院琵琶教室の協力のもと演奏会も実施した。



【ヒストリカ・スペシャル】

- ・エミー賞18冠に輝いた話題の『SHOGUN 将軍』（第一話、第二話）の上映に加え、宮川絵里子プロデューサーと第七話を監督した福永壮志氏が登壇し、製作の裏側を語るトークを開催。
- ・2025年1月公開の小泉堯史監督最新作『雪の花—ともに在りて—』をプレミア上映
- ・山中貞雄が遺した脚本を丸山正雄プロデューサー、りんたろう監督がアニメ化した作品『鼠小僧次郎吉』の上映
- ・京都映画企画市2016年度優秀映画企画パイロット版から初の長編化作品『黒の牛』の上映

【ヒストリカ・ワールド】

エナ・センディヤレヴィッチ監督の『スウィート・ドリームス』をはじめ、『農民』『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・カリビアン』『グロリア!』の世界の新作歴史映画4作品を上映。

【ヒストリカ・フォーカス】

“持たざる者の戦い”をテーマに、『侍タイムスリッパ』をはじめとする6作品の特集を組み上映した。

【その他連携企画】

ボローニャ復元映画祭、イタリア文化会館-大阪、ヴェネツィア・ビエンナーレ・ビエンナーレ・カレッジ・シネマ、ポーランド・NNW国際映画祭、ポーランド広報文化センター、京都フィルムメーカーズラボと連携した。

【ヒストリカお座敷】

京都文化博物館の6階で映画というジャンルをハブに、ゲーム、アニメ、メタバース、NFT、生成AIのクリエイターが、様々なテーマで車座になってトークを行う「ヒストリカお座敷」を開催。今回は70畳×3部屋のスペースを「トーク」「展示」「上映」に分け、トップクリエイターのレクチャーや京都のコンテンツ企業と若手のフィルムメーカーによる作品展示・上映を行い、コンテンツのクロスメディア展開や人材育成・交流を図った。

【HISTORICA × X (クロス)】

「AIの限界を超える、感情と共感を生むIP戦略」をテーマに、ハリウッドの第一線で活躍しているトランスメディアプロデューサー、ジェフ・ゴメス氏を招き、クリエイティブな知的財産（IP）を生み出すことの意義について、国内のIPクリエイター／プロデューサーと共にトークセッション・セミナーを行った。

●京都フィルムメーカーズラボ

開催日：12月3日（火）～8日（日）

会 場：松竹撮影所／東映京都撮影所／京都文化博物館ほか

参加者：767名

□ハンズオン時代劇

若手映像クリエイターを対象に、松竹撮影所、東映京都撮影所のオープンセットにて、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、本格的時代劇を体験するワークショップを開催した。

□マスターズセッション

東京国際映画祭やヴェネチア国際映画祭など、国内外の国際映画祭との連携をベースに、著名な映画人や映像ビジネス関係者等を招聘し、映画・映像制作に関するレクチャー・ディスカッションを実施した。

〈講師〉

阪本順治（映画監督）、りんたろう（アニメーション監督）、丸山正雄（アニメプロデューサー）、目黒浩（経済産業省 映像・アニメ・ロケ誘致・印刷政策統括）、クリスティアン・フィリップ（映画監督）、レイ・フィゲロア（映画監督）、ヴァレンティーナ・ベッローモ（Curator, Biennale College Cinema）、ヨランダ・ディ・ボナヴェントゥーラ（VR監督）、エイドリアン・ランソン（Klio Studio CEO）、福永壮志（映画監督）、宮川絵里子（映画プロデューサー）、ダグラス・モンゴメリー（Global Connects CEO）、梅若ソラヤ（MatchHat CEO）、八木毅（特撮監督）、泉原豊（俳優）

●第16回京都映画企画市

□映画企画コンテスト・優秀映画企画上映会

開催日：10月5日（土）

会 場：ハートピア京都

参加者：60名

内 容：時代劇の拠点としての京都の優位性を活かし、若手クリエイターが世に出る仕組みを構築するため、若手映画・映像製作者（監督、プロデューサー等）を対象とした時代劇企画コンテストを実施した。

また、2023年度優秀作品企画の馬杉雅喜監督『サバイバル忍者』のパイロット版を上映した。

応募企画数：40企画

優秀賞作品企画：『引かれ者の小唄』

企画者：栗本 慎介（監督）、島村 隆（脚本）

〈評価者〉

犬童 一心 [監督]

須藤 泰司 [東映(株)映画企画部 ヘッドプロデューサー]

和田 隆 [映画記者／プロデューサー]



KYOTO CMEX 2024

KYOTO CMEX

□映画企画相談会

開催日：9月15日（日）

会 場：オンライン

参加者：8名（第15回京都映画企画市ファイナリスト5名と評価採点上位者から3名を選出）

内 容：第一線で活躍するプロデューサーによる企画指導
（指導者）

久保田 傑（㈱オフィス・シロウズ プロデューサー）

永井 拓郎（㈱リキプロジェクト 代表取締役）

マンガ・アニメ

●京都国際マンガ・アニメフェア【略称：京まふ】

開催日：9月21日（土）・22日（日）

会 場：京都市勤業館（みやこめっせ）等

動員数：558,681名（うちオンライン視聴者数：522,951名）

内 容：マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者・外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上など、京都市におけるコンテンツ市場の振興を図るため、西日本最大規模のマンガ・アニメの総合見本市を開催した。



●マンガ・アニメイベント

開催日：9月21日（土）・22日（日）

会 場：京都市勤業館（みやこめっせ）ロームシアター京都 他 ※京まふ会場で実施

動員数：533,907名（うちオンライン視聴者数：522,951名）

内 容：人気声優等のトークイベントやアニメ上映会など、出展者によるステージイベントを実施した。今年度は、人気作品によるステージイベントのオンライン配信視聴者数が非常に多かった。また、和装振興の一環として多くのステージ登壇者に着物を着用いただいた。

●マンガ出張編集部

開催日：11月30日（土）～12月1日（日）

会 場：京都国際マンガミュージアム

出展数：46編集部

持込者：204名（2日間合計）

内 容：首都圏を中心とした出版社のマンガ編集部を招き、マンガ家志望者が原稿を持ち込んで添削やアドバイスを受けられる場を創出した。

●京都国際マンガミュージアムイベント

開催日：7月13日（土）～10月8日（火）

会 場：京都国際マンガミュージアム

内 容：数々の漫画賞に輝きテレビアニメ化もされた「ダンジョン飯」の大規模展覧会である「ダンジョン飯」迷宮探索展と、原作者・九井諒子氏の初の作品展覧会となる「九井諒子展」を同時開催し、代表作「ダンジョン飯」を中心に複製原画や九井諒子氏のインタビューコメント展示を実施した。



©RyokoKui

©九井諒子・KADOKAWA刊／
「ダンジョン飯」製作委員会

●京都国際クリエイターズアワード

応募メ切：8月31日（土）まで

応募総数：869作品（※75の国と地域から応募あり）

コミックコンテスト 735作品

デジタルアニメコンテスト 134作品

内 容：マンガ家やアニメ等のクリエイター志望者が京都を通じてデビューする機会を創出するため、コミックコンテスト及びデジタルアニメコンテストの2つのコンテストからなる国際コンテストを開催した。



コミックコンテスト最
優秀賞

『Church Of Sinners』

オフィシャルイベント

KYOTO CMEX 2024

KYOTO CMEX

●滞在型ワークショップ「Field KYOTO」

開催日：3月15日（土）・16日（日）※予定

会 場：未定

参加者：25名程度

内 容：京都を題材とした創作活動に資する知識の習得や体験を行いながら、京都を題材とした作品企画に繋がるよう、フィールドワークやプロット作成などの滞在型ワークショップを実施予定。

ゲーム

●BitSummit

開催日：7月19日（金）～21日（日）

会 場：みやこメッセ（オンライン併催）

来場者数：38,333名

オンライン視聴回数：2,580,474回

内 容：日本のインディーゲームを国内外のゲームファンやメディアに広く情報発信し、ゲーム分野だけではなく異分野の企業・人々との新たなビジネスマッチングを目的にインディーゲームの展示会を開催。

令和6年度はボードゲームゾーンを新設し、デジタル・アナログともにインディーゲーム市場の活性化やゲームによる産業振興を図った。

出展チーム：111チーム（デジタルゲーム：98チーム ボードゲーム：13チーム）

学生ゲームジャム：19チーム



メタバース

●京都館PLUS X

内 容：インターネット上の仮想空間に開設した京都市の新たな情報発信の拠点として、京まふやSNSのインフルエンサーと連携するなど、京都をより身近に感じていただける情報発信を実施した。

Rakuten Fashion Week TOKYO 2025 S/S・A/W

Rakuten
Fashion Week TOKYO
Rakuten

会 期：2025 S/S：2024年9月2日（月）～7日（土）
2025 A/W：2025年3月17日（月）～22日（土）
会 場：2025 S/S：渋谷ヒカリエ・表参道ヒルズ 他
2025 A/W：スパイラルホール/TODAホール&カンファレンス東京 他
主 催：（一社）日本ファッション・ウィーク推進機構
後 援：（25SS）経済産業省／外務省／知的財産戦略本部／（独）日本貿易振興機構／（独）中小企業基盤整備機構／東京都／
（一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／（一財）日本ファッション協会／
（一社）日本アパレル・ファッション産業協会／（一財）ファッション産業人材育成機構／（一社）日本百貨店協会／
渋谷区／渋谷区商店会連合会／日本ジーンズ協議会
（25AW）経済産業省／外務省／知的財産戦略本部／（独）日本貿易振興機構／（独）中小企業基盤整備機構／東京都／
（一社）日本経済団体連合会／日本商工会議所／東京商工会議所／（一財）日本ファッション協会／
（一社）日本アパレル・ファッション産業協会／（一財）ファッション産業人材育成機構／（一社）日本百貨店協会／
渋谷区／港区／渋谷区商店会連合会／日本ジーンズ協議会
協賛／連携：TITLE SPONSOR：楽天グループ(株)
OFFICIAL SPONSOR：（25SSのみ）旭酒造(株)
SPECIAL SUPPORTING PARTNERS：（25SS）東急(株)／渋谷ヒカリエ
SPECIAL SUPPORTING PARTNER：（25AW）東急(株)
OFFICIAL PARTNER：（25SSのみ）ニッカウキスキー(株) （25AWのみ）パナソニック(株)
SUPPORTING PARTNERS：東レ(株)／(株)オンワードホールディングス／(株)TSIホールディングス／伊藤忠商事(株)／
(株)アダストリア／(株)ワールド／ニッケ（日本毛織(株)）／スタイレム瀧定大阪(株)／瀧定名古屋(株)／
(株)大丸松坂屋百貨店（予定）
公式サイト URL：https://rakutenfashionweektokyo.com/jp/

総来場者数（参加数）：非公開

出展社数：2025 S/Sシーズン 33ブランド（デジタル：7ブランド フィジカル：26ブランド）
内訳：（国内出展社数：26社 海外（地域）出展社数：7社）
2025 A/Wシーズン 37ブランド（デジタル：5ブランド フィジカル：32ブランド）
内訳：（国内出展社数：33社 海外（地域）出展社数：4社）



■開催内容

「Rakuten Fashion Week TOKYO」は、(一社)日本ファッション・ウィーク推進機構(以下JFWO)が主催し、毎年2回開催しているファッションの祭典で、公式会場を含む東京各所から世界で注目される最新の日本のクリエイションを発信するイベントである。2025年度は、年間コンセプト「FASHION FANFARE(ファッションファンファーレ)」のもと、ファッションの“楽しさ”や“素晴らしさ”を発見できる東京独自のファッション・ウィークとして、魅力的なコンテンツの展開、国内外への発信の取組を強化。一般参加可能なコンテンツを多数実施し、広く国内外に「TOKYOファッションの魅力」を伝えた。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

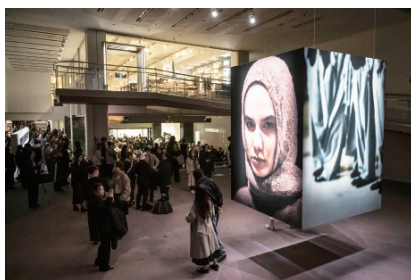
25SSシーズンはTOKYO FASHION AWARDの10周年イベント「10 years of TOKYO FASHION AWARD」およびオープニングパーティを、25AWシーズンはFASHION PRIZE OF TOKYO Winner's eventおよびオープニングパーティを行うなど、会期前日や会期中に一般参加も可能なパーティや展示(イベント)、ショー観覧や来場者スナップなどを実施し、業界関係者のみならず一般の方にも「TOKYOファッションの魅力」を広く知らしめることができた。

また、2025年3月に開催した25AWシーズンでは、パンデミック明けの24AWから本格的に開始した海外からのバイヤー・プレス誘致をさらに充実させ、「サポート企画」をスタートし、ショーやショールームを訪問いただいた。

- ・TOKYO FASHION AWARD
<https://tokyo-fashion-award.jp/about.php>
- ・FASHION PRIZE OF TOKYO
<https://fashion-prize-of-tokyo.jp/>

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・TOKYO FASHION AWARD 10周年イベント「10 years of TOKYO FASHION AWARD」
- ・TOKYO FASHION AWARD 2025 WINNERS' EVENT
- ・ASHION PRIZE OF TOKYO 2025 WINNER'S EVENT
- ・TRANOÏ TOKYO S/S 25
- ・TRANOÏ TOKYO A/W 25-26
- ・TOKYO AI Fashion Week-2025 SS
- ・MARRONNIER COLLEGE OF FASHION DESIGN 2025S/S Collection
- ・The 24th YKK FASTENING AWARDS Special Exhibition
- ・モード・東京校 40周年記念ショー「ESMOD TOKYO 40TH SHOW RUNWAY」 他



CEATEC 2024(シーテック 2024)

CEATEC® 2024
TOWARD SOCIETY 5.0

会 期：2024年10月15日(火)～18日(金)
会 場：幕張メッセ
主 催：(一社)電子情報技術産業協会(JEITA)
共 催：(一社)情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)／(一社)ソフトウェア協会(SAJ)
後 援：総務省／外務省／経済産業省／厚生労働省／国土交通省／
デジタル庁(建制順)／(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)／
(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)／
(国研)産業技術総合研究所(AIST)／(国研)情報通信研究機構(NICT)／
(独)情報処理推進機構(IPA)／(独)中小企業基盤整備機構／千葉県／千葉市／
日本放送協会(NHK)／(一社)日本民間放送連盟／
(一社)日本経済団体連合会／(一社)日本自動車工業会／日本商工会議所／
東京商工会議所／千葉商工会議所／在日米国大使館商務部／
カナダ大使館オンタリオ州政府／(一財)日欧産業協力センター／
駐日アラブ首長国連邦大使館／駐日ラトビア共和国大使館／
在日ウクライナ大使館
対 象：ITエレクトロニクスを活用するビジネスユーザおよび関連するコンシューマ
公式サイト URL：<https://www.ceatec.com>

総来場者数(参加数)：112,014人
内 訳：(国内入場者数(参加数)：110,042人 海外入場者数(参加数)：1,972人)
出展社数：808社
内 訳：(国内出展社数：650社 海外出展社数：158社)
出展参加国と地域数：25の国と地域
プレス社数：1,087名

■開催内容

CEATEC 2024は、展示を「見て」、コンファレンスを「聴いて」、未来の社会を「感じて」「考えて」、共創に向けて「動き出す」ことを指す『CEATEC 体験』による共創の場、「デジタルイノベーションの総合展」として開催し、取り扱う産業の幅がより広がり、本年の開催テーマである「Innovation for All」を体現する4日間となった。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

25周年の特別企画として「AI for All」を展開、AIで世界を変えていく最前線に立つ企業や団体の皆様と共に、大きく変わるこれからの未来社会や最新技術・ソリューションを発信した。同企画のステージプログラムでは、日本を代表する研究機関や企業、さらに海外のAI専門企業が集い、AI技術の最前線を発信した。

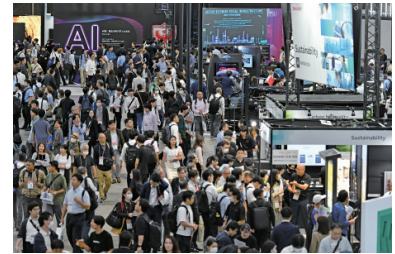
開催初日は、「プレミアムタイム」として、報道関係者ならびに出展者の重要顧客の皆様などの招待者限定の公開時間を設定した。

また、同日夕方にはオープングレセプションをパレスホテル東京にて開催し、主催団体である(一社)電子情報技術産業協会 津賀一宏会長(パナソニックホールディングス(株)取締役会長)による主催者代表挨拶とともに、石破茂内閣総理大臣より頂戴したビデオメッセージが上映され、ご来賓として会場には平将明デジタル大臣、上月良祐経済産業副大臣、馬場成志総務副大臣、(一社)日本経済団体連合会 東原敏昭副会長、(一社)日本自動車工業会 片山正則会長をお迎えし、ご祝辞を頂戴した。

オープングレセプションには、出展各社の経営幹部、海外大使館関係者、官公庁関係者など、約700名にご参集いただき、参加者同士の懇親を図るとともに、「CEATEC AWARD 2024」の大臣賞表彰を実施。大臣ならびに副大臣から直接、賞状と盾の授与を賜るとともに、大臣賞と25周年特別賞の簡易展示ブースを設置し、オープングレセプションに出席した皆様へ展示をご覧いただいた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

(一社)日本自動車工業会が主催する「JAPAN MOBILITY SHOW BIZWEEK」と初の併催が実現。セミナー、コンファレンスのみならず、展示イベントとして自動車関連産業との共創のきっかけを生み出すことができた。



オフィシャルイベント

国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2024 (東京ドラマアウォード2024)



会 期：2024年10月28日(月)
会 場：東京プリンスホテル
主 催：国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会
(構成団体) 日本民間放送連盟／TBS テレビ／日本テレビ放送網／テレビ朝日／フジテレビジョン／テレビ東京／
WOWOW／日本放送協会／日本映画製作者連盟／松竹／東宝／東映／KADOKAWA／日本音楽事業者協会／
実演家著作隣接権センター／全日本テレビ番組製作社連盟／日本映画テレビプロデューサー協会
後 援：総務省／経済産業省
協 賛：(株)電通／(株)博報堂 D Y メディアパートナーズ
対 象：業界関係者
公式サイト URL：https://www.j-ba.or.jp/drafes/

総来場者数(参加数)：300人
プレス社数：38社
内訳(国内プレス社数：38社 海外プレス社数： 社)

■開催内容

◆「東京ドラマアウォード2024」授賞式

- ・司 会：三谷幸喜、有働由美子
- ・登壇者：草薅剛、石橋静河、若葉竜也、内田有紀、正門良規(Aes! group)、佐久本宝、比嘉梨乃ほか

●受賞作品

作品賞<連続ドラマ部門>

- | | |
|-------|--------------------------|
| グランプリ | 「VIVANT」TBS テレビ |
| 優秀賞 | 「舟を編む ～私、辞書つくります～」日本放送協会 |
| 優秀賞 | 「燕は戻ってこない」日本放送協会 |
| 優秀賞 | 「不適切にもほどがある!」TBS テレビ |
| 優秀賞 | 「アンメット ある脳外科医の日記」関西テレビ放送 |

作品賞<単発ドラマ部門>

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| グランプリ | 「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」日本放送協会 |
| 優秀賞 | 「未解決事件 File.10 下山事件」日本放送協会 |
| 優秀賞 | 「侵入者たちの晚餐」日本テレビ放送網 |
| 優秀賞 | 「ブラック・ジャック」テレビ朝日 |
| 優秀賞 | 「生きとし生けるもの」テレビ東京 |
| 優秀賞 | 「PICU 小児集中治療室 スペシャル 2024」フジテレビジョン |

ローカル・ドラマ賞

- | |
|-----------------------------------|
| 「京都のお引越し」朝日放送テレビ |
| 「琉球歴史ドラマ『阿麻和利 THE LAST HERO』」琉球放送 |



■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

司会に三谷幸喜氏と有働由美子氏を迎え、授賞式のYouTubeでの配信を初めて実施。全世界向けに配信を行い、ライブ配信の同時視聴者数は最大3,500人超だった。アーカイブ配信は、インプレッション数が36.8万、視聴回数が2.7万回だった(2025年1月末時点)。



司会



連続ドラマ部門グランプリ
『VIVANT』



単発ドラマ部門グランプリ
『デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士』

第51回日本賞 教育コンテンツ国際コンクール

JAPAN PRIZE 2024

会 期：2024年11月18日（月）～21日（木）
 会 場：WITH HARAJUKU HALL
 主 催：日本放送協会
 対象：国内外を問わず、教育および教育コンテンツに関心のあるすべての人々
 公式サイト URL：https://www.nhk.or.jp/jp-prize/

総来場者数（参加数）：908人（リアル参加のみ）
 内訳：（国内入場者数（参加数）：839人 海外入場者数（参加数）：69人）

■開催内容

NHKが主催する、教育をテーマにしたテレビ番組や映像作品などの国際コンクール「日本賞」。第51回目を迎えた今回は、11月18日（月）～21日（木）に「日本賞映像祭」を東京・原宿のWITH HARAJUKU HALLで開催し、イベントのオンデマンド配信も行った。今回は、前回に引き続き、最優秀賞・優秀賞などのコンクールの結果の一部を事前に発表。海外から受賞者を招聘したこともあり、35の国と地域から69名の参加があった。国内からも番組制作者をはじめ、教育コンテンツに関心を持つ人が多く参加し、会場でのリアル参加者が908名、オンラインでの参加が386名と盛況であった。

今年の「日本賞映像祭」の軸となったのは、昨年に引き続き「上映会&ディスカッション」。各部門最優秀賞および優秀賞作品を上映の後、参加者同士でのディスカッションが行われ、続けて受賞作品の制作者と審査委員が登壇。制作者は作品が生まれたきっかけや制作秘話を語り、審査委員は作品の評価ポイントなどについてコメントした。作品上映からディスカッション、制作者によるトークという流れが功を奏し、意見交換が活発に行われ、参加者の満足度も約9割と高かった。

また、予算・機材など制作条件が十分でない国・地域での教育番組の企画の実現を支援する「企画部門」では、会期中の19日に、ケニアや南スーダンなどから一次審査を通過した6名が、自分たちの企画に関するプレゼンテーションを行った。

最終日の21日には授賞式が行われ、秋篠宮皇嗣妃殿下にご臨席賜り、各部門最優秀賞4作品の中から選ばれた「グランプリ日本賞」と企画部門の最優秀賞と優秀賞が発表された。「グランプリ日本賞」には、イランの宗教都市コムを舞台に、少年時代に性的虐待を受けた男性が、大人になってから妻の支えを受けつつ、トラウマに向き合う姿を描いたドキュメンタリー「ハグしてもいい?」が選ばれた。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

青少年部門の優秀賞には、自閉症の子どもの世界をテーマにした、カナダの作品が選ばれた。上映会は、実際にVR作品を壇上でデモンストレーションする形で行った。また、参加者が実際にVRゴーグルを着用して作品を体験できるコーナーを会場に設け、約50人が自閉症の世界をイマーシブ体験。作品への理解が深まったと好評であった。



オフィシャルイベント

Tokyo Docs 2024

Tokyo
Docs

会 期：2024年11月5日（火）～7日（木）
会 場：あうるすぽっと
主 催：（特非）Tokyo Docs
共 催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
後 援：総務省／経済産業省／東京都／豊島区／（独）国際交流基金／
日本放送協会（NHK）／（一社）日本民間放送連盟（民放連）／
（特非）放送批評懇談会／（一社）放送人の会／
（一社）全国地域映像団体協議会（全映協）／
（公社）映像文化製作者連盟（映文連）
対 象：放送関係者、一般、学生など
公式サイト URL：https://tokyodocs.jp/

総来場者数（参加数）：400人
出展参加国と地域数：12の国と地域
バイヤー数：35人
内 訳：（国内バイヤー：11人 海外バイヤー：24人）
商談件数：480件

■開催内容

14回目を迎えたTokyo Docsは、11月5日（火）～7日（木）の期間で、池袋のあうるすぽっとを会場に開催。会場には3日間延べ400名の参加者が来場し、そのうち海外ゲストは12か国地域から24名来日した。

11月5日～6日には、ピッチングセッションを行った。今年は日本から8本、アジアから9本が参加し、15分の持ち時間で、会場のゲストを前に自分のプロジェクトについて説明した。なお、冒頭7分は企画説明と企画内容を紹介するVTR（トレーラー）の上映、後半8分は会場のゲストとのQAセッションという構成になっている。11月7日には、短編ドキュメンタリーのピッチ「ショート・ドキュメンタリー・ショーケース」を実施した。今年は4作品の選りすぐりの短編がピッチされた。

商談に関しては、従前の個別ミーティングに代わりラウンドテーブルを開催した。ラウンドテーブルとは、ゲストと提案者が数名同じテーブルに座り、情報共有しながら、自分の企画内容をゲストにプレゼンして企画成立のカギを探すための重要なネットワーキングの場となる。ミーティング件数は例年200件だが、今年は全企画が全ゲストとミーティングができたので、480件以上のミーティングが成立した。

11月5日と6日には、Tokyo Docs発の完成作品の上映にも力を入れた。5日は、Tokyo Docs 2020にピッチした奥間勝也監督の「骨を掘る男（2024年／フランス・日本／115分）」の上映とトークセッション、6日には、短編ドキュメンタリー5作品を上映した。

イベントに参加した製作者のためのワークショップの開催も行った。ラインナップは、11月5日：プロジェクトの資金調達と配給方法を学ぶ「成功するセールス」、11月6日：短編作品におけるグローバルマーケットの現在地を解説した「ショート・ドキュメンタリーの現状」、11月7日：ピッチングセッション後取るべき次のステップや、国際共同制作やグローバルな展開への道をどのように切り拓いていくかを解説した「ピッチングセッション後の進め方」。

イベント前には、ピッチ者を対象にした、デンマークのドキュメンタリストOve Jensen氏による集中トレーニングも実施した。引き続き、国際クリエイター育成事業とピッチングを实践する場の両輪でTokyo Docsを継続開催していきたい。



ピッチングセッション



ラウンドテーブル



上映会



ワークショップ

Tokyo Docs 2024

Tokyo
Docs

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

今年の特徴としては、国際都市を掲げる豊島区と連携した。その一環として、区から会場の提供、豊島区民への積極的な参加の呼びかけなどを行った。来年はさらに連携を深めることを検討している。もうひとつは、日本の放送局や製作会社の持っている企画を海外ゲストに向けて再提案する場「WIP (Work-in Progress breakfast meeting)」を実施。海外ゲスト来日の機会を生かし、さらなる日本の企画が海外展開する仕組みづくりに取り組んだ。さらには、海外派遣賞の枠を増設することで、受賞した企画が海外ピッチに立てるきっかけづくりを支援することとした。派遣先としては、Sunny Side of the Doc 賞（フランスのマーケット）、DocedgeKolkata（インドの映画祭）に加え、新たに Al Jazeera Documentary（カタール：企画への出資、成立後アルジャジーラで放送）、In-Docs（インドネシア映画祭）を追加した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- Sunny Side of the Doc 賞（フランスのマーケット）、DocedgeKolkata（インドの映画祭）に加え、新たに Al Jazeera Documentary（カタール：企画への出資、成立後アルジャジーラで放送）、In-Docs（インドネシア映画祭）と連携し、受賞した製作者を派遣することになった。
- LINE ヤフー傘下の Yahoo ニュースドキュメンタリーと連携して、ショート・ドキュメンタリー・ショーケースを開催した。ショート・ドキュメンタリー製作者に応募を呼びかけ、優れた作品を Yahoo ニュースドキュメンタリーで配信するなど、連携の成果が期待される。



2025 年受賞者

オフィシャルイベント

Inter BEE 2024

Broadmedia & Entertainment

Inter BEE 2024

会 期：幕張メッセ会場：2024年11月13日（水）～15日（金）
会 場：幕張メッセ
主 催：（一社）電子情報技術産業協会
共 催：第61回民放技術報告会／全映協フォーラム 2024 in 幕張
後 援：総務省／経済産業省（建制順）／NHK／（一社）日本民間放送連盟（JBA）／（一社）電波産業会（ARIB）／
（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）
対 象：映像・音響制作者、放送事業者、及び、インターネット・通信・照明・舞台・エンタメ・メディアビジネス関係者
公式サイト URL：<https://www.inter-bee.com/>

総来場者数（参加数）：33,853 人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：32,848 人 海外入場者数（参加数）：1,005 人）

出展社数：1,058 社

内 訳：（国内出展社数：503 社 海外出展社数：555 社）

出展参加国と地域数：36 の国と地域

プレス社数：227 社

■開催内容

今回で60回目を迎えるInter BEEはメディア&エンターテインメント産業界に広く認知され、音響、映像、放送、ライブエンターテインメント、ライティング、通信・配信関連等のプロフェッショナルはもとより、幅広い分野の技術者・クリエイター・ステークホルダーが一堂に会する日本最大級のメディア総合展示会として開催された。会期終了後は公式ウェブサイトにて、出展各社の展示製品・サービスの紹介や、コンファレンスのセッション動画のアーカイブ配信を通じた情報発信を行った。

本年の出展者数は1,058社／団体（うち海外35カ国・地域／555社）、幕張メッセ会場の登録来場者数は33,853名となる開催規模となった。

国際会議場では基調講演および特別講演、展示会場では特別企画のオープンステージにて企画セッションを実施。業界のエキスパートによる各分野の最新動向の発表や課題の提案等、多様なコンファレンスが展開された。また会期初日には、東京ベイ幕張ホール（アパホテル&リゾート東京ベイ幕張）において、60回開催記念レセプションパーティーを開催。業界関連団体関係者、出展者、業界関連プレス、コンファレンス関係者、ユーザ（放送局、映像制作等）等計525名が参加し、有益な交流・情報交換の場がもたれた。

イベントホールで実施された国内最大級のSRスピーカー試聴イベント『INTER BEE EXPERIENCE X-Speaker』や、ヘッドフォン／マイクロフォンの試聴体験エリア『INTER BEE X-Headphone | X-Microphone』が注目を集め、音響業界のみならず、メディア・エンターテインメント業界の幅広い関係者の来場につながった。

60回目の記念開催にあたり、メディア&エンターテインメント産業界の「未来を見据え、新たな10年への扉を開く」取り組みとして、初めての試みとなる『INTER BEE AWARD』を創設。展示されている技術・製品・サービス・ソフトウェア・コンテンツ等を対象として、審査委員会の厳正な審査により、優れた展示案件を選出しレセプションパーティーにて表彰式を実施した。

更に60回開催記念の特別企画『INTER BEE CINEMA』では、映画制作技術に焦点を当てた体験型シネマコミュニティを展開した。日本の最前線で活躍する技術者とプロが集まり、リアルに再現したセットにてライブデモンストレーションを行い、映画制作のテクニクや創造性を発信した。



Inter BEE 2024

Broadmedia & Entertainment
Inter BEE 2024

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・『INTER BEE AWARD』を新規設立し、出展製品・技術・サービス・ソフトウェア及びコンテンツ等から、優れた展示案件に対して表彰し内外に発表。
- ・特別企画『INTER BEE CINEMA』を新規設立し、映画制作技術に焦点を当てた体験型シネマコミュニティとして実施。
- ・スマートフォンのAR機能を使った新感覚スタンプラリーを実施。会場内にあるチェックポイントでスタンプを集め、クリアした来場者へARガチャで景品を進呈。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・第61回民放技術報告会
- ・全映協フォーラム 2024 in 幕張



オフィシャルイベント

INTER BEE IGNITION × DCEXPO

INTER BEE IGNITION × DCEXPO

会 期：2024年11月13日（水）～15日（金）

会 場：幕張メッセ

Inter BEE 主催：（一社）電子情報技術産業協会

Inter BEE 運営：（一社）日本エレクトロニクスショー協会

INTER BEE IGNITION × DCEXPO 共同運営：（一財）デジタルコンテンツ協会

対 象：XR（VR/AR）、CG、3D映像／音響、人工知能（AI）、メタバース、ブロックチェーン、超臨場感映像、プロジェクションマッピング、ドローン、ロボティクス、インタラクティブシステム、モーションシステム、メディアアート、その他先進映像表現技術、4K/8Kプロジェクタ、デジタルサイネージ、ライブエンターテインメントテクノロジー、空間演出、演出用特機、照明システム、ビックデータ、クラウド、IoT、その他表現・体験技術

公式サイト URL：<https://www.inter-bee.com/ja/forvisitors/conference/ignition/>

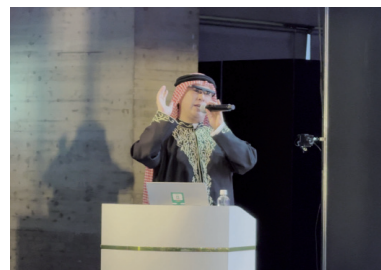
総来場者数（参加数）：33,853 人（InterBEE 2024 全体の実績値）

内 訳：（国内入場者数（参加数）：32,848 人 海外入場者数（参加数）：1,005 人）

出展社数：41 社

内 訳：（国内出展社数：38 社 海外出展社数：3 社）

出展参加国と地域数：3 つの国と地域



■開催内容

「INTER BEE IGNITION × DCEXPO」は、コンテンツ産業とエンターテインメント産業における新たなビジネス創出と活性化を目指す Inter BEE 内の特別企画。新たな市場を創出する最先端のコンテンツ技術を体験できる展示のほか、世界の第一線で活躍する専門家、研究者、クリエイターによるコンファレンスが行われた。「DCEXPO（デジタルコンテンツ・エキスポ）」は2008年から毎年開催され2024年で17回目の開催。質の高い技術を、大学や企業の研究室の中で留めることなくコンテンツと組み合わせ体験いただくことで、世界を変えるようなイノベーションを起こすきっかけの場を創っている。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

基調講演では、映画監督の山崎貴氏、世界的メディアアーティストの落合陽一氏、CGアーティストの河川洋一郎氏が、「メディア・アートとAIの未来」「特撮の魅力」についてトークセッションを行い、企画セッションでは、AI、メタバース、Web3、XR等をテーマに、コンテンツ技術やヴィジュアルテクノロジーの視点でこれからの社会とビジネスを考えるセッションや、Vライバーがスタートアップを紹介するセッション等を行った。計15のコンファレンスでオンラインアーカイブを含め4千人以上が聴講する盛況ぶりだった。

中でも、世界最大のCGとインタラクティブ技術の国際学会 ACM SIGGRAPHよりMetaの研究者と NVIDIA のメンバーを招き、慶應義塾大学の南澤孝太教授とともに、Metaの最新研究成果や2025年の注目テクノロジーについて語るトークセッションや、「中東エリア」をテーマに大規模開発、エンタメ、スタートアップ関連イベント等の最新トピックスや今後の中東諸国の国家戦略を解説する講演は、大きな注目を集めた。

昨年好評だったスタートアップエリアに今年は大学からの出展も加わり、「スタートアップ&ユニバーシティ」として16のブースで展示が行われた。また、経済産業省がスタートアップの海外展開を支援する「TechBiz」による7ブースの展示でも活発に意見交換やマッチングを行う様子が見られた。「イノベーションネットワーク」では、出展者や来場者によるオープンマイクピッチや「ACM SIGGRAPH 賞」「NEDO 賞」などの表彰式が行われ、ここでも積極的な意見交換やネットワーキングが行われた。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

DCEXPOはACM SIGGRAPHと連携し、毎年優れた技術の表彰及び受賞技術の交換展示を行っており、今年は台湾のXR Lab @ NTUT&GoldenSlashが開発した「Metapunch X」が展示されたほか、東京国際フォーラムで行われた「SIGGRAPH ASIA 2024 東京」でも注目コンテンツ技術の紹介やイベント告知を行った。



第11回ロボット大賞



会 期：2024年9月18日（水）～20日（金）
 会 場：東京ビッグサイト
 共 催：経済産業省（幹事）／（一社）日本機械工業連合会（幹事）総務省／
 文部科学省／厚生労働省／農林水産省／国土交通省
 対 象：ビジネス関係者、一般
 公式サイト URL：https://www.robotaward.jp/

受賞者数：15 案件

■開催内容

情報技術、エレクトロニクス、機械工学、素材技術など我が国産業の強みと言える幅広い要素技術を統合することによって生み出される次世代のロボット技術（RT）は、我が国に科学技術の更なる発展をもたらすとともに、ものづくり分野はもとより、サービス分野、ICT利活用分野、介護・医療・健康分野、社会インフラ・災害対応・消防分野、農林水産業・食品産業分野などの幅広い分野における利活用が進むことにより、生産性の飛躍的向上、単純な繰り返し作業や過重な労働等からの解放、急速な少子高齢化が引き起こす労働力不足の解消や、安全・安心な社会の実現に貢献すると期待される。

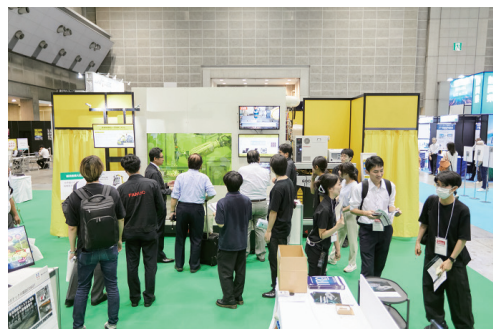
このため、将来の市場創出への貢献度や期待度が高いと考えられるロボット及びロボットに関連するビジネス・社会実装、ロボット応用システム、要素技術、高度ICT基盤技術、研究開発、人材育成（以下、「ロボット等」という。）を表彰することにより、ロボット技術の開発と事業化を促進し、技術革新と用途拡大を加速する、社会に役立つロボットに対する国民の認知度を高め、ロボットの需要を喚起するとともに、全国から広く募ることで我が国のロボット技術の動向を把握することを目的としている。

◆第11回ロボット大賞

本年度のロボット大賞は、全85件の応募の中から15案件が表彰された。
 2024年9月18日（水）に東京ビッグサイトにて表彰式と受賞者による合同展示（～20日（金）まで）を実施し、多くの来場者に受賞ロボットを認知してもらうことができた。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

スタートアップ企業をより評価するため、実績だけではなく、「これからどのようなイノベーションやブレイクスルーをもたらすことができるか」の記載項目を応募用紙に追加した。結果、スタートアップ企業の応募が増加した。



オフィシャルイベント

東京アニメアワードフェスティバル2025



会 期：2025年3月7日（金）～10日（月）
会 場：池袋シネマ・ロサ／池袋HUMAXシネマズ／シネ・リーブル池袋／
TOHOシネマズ池袋／Mixalive TOKYO B2F Hall Mixa／
オトメイトビル6F オトメイトスクエア／サンシャイン水族館／
東京建物 Brillia HALL パークプラザ／としま区民センター／WACCA 池袋
主 催：東京アニメアワードフェスティバル実行委員会／（一社）日本動画協会
共 催：東京都
特別協賛：豊島区
協 力：アニメーション美術家連盟／CG-ARTS（（公財）画像情報教育振興協会）／
日本アニメーション協会／（一社）日本アニメーター・演出協会／
（一社）日本音声製作者連盟／（協組）日本脚本家連盟
後 援：（独）国際交流基金／日本アニメーション学会／日本映像学会／
（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）／（公社）日本漫画家協会／文化庁／
（公財）ユニジャパン
対 象：プログラムによって異なる
公式サイト URL：<https://animefestival.jp/ja/>
<https://animefestival.jp/en/>



授賞式



シンポジウム・ポートフォリオの作り方

総来場者数（参加数）： 人
内 訳：（国内入場者数（参加数）： 人 海外入場者数（参加数）： 人）
プレス社数：33社
内 訳（国内プレス社数：30社 海外プレス社数：3社）

■開催内容

「東京アニメアワードフェスティバル（TAAF）」は、クリエイター、アニメーション関係者、ファンが一体となる日本を代表する国際アニメーション映画祭である。

新たな人材の発掘・育成、アニメーション文化と産業の振興に寄与すること及び、東京の魅力を発信し、東京の観光振興に資することを目的とし、『東京がアニメーションのハブになる』を合言葉に、高いクオリティとオリジナリティに富む世界中の作品を東京で上映し、世界中のアニメーションを愛する人々との交流を図り、クリエイターや観客に刺激と感動を提供し、そしてその感動や刺激を糧にアニメーションの新たな波を東京から世界へ発信する。

TAAFは、アニメーション作品とその制作者に栄誉を与えることで、世界中のアニメーション制作に携わるみなさんに勇気を与えられるようなフェスティバルでありたいと願っている。

日本国内で未興行の世界のアニメーション作品を対象にした「コンペティション部門」、日本国内で発表されたアニメーション作品を対象とした「アニメ オブ ザ イヤー部門」、アニメーション業界に貢献された方々を顕彰し、先人達の歴史、技術、生き様を伝える「アニメ功労部門」を中心とした上映の他に、トークショー、シンポジウム、子ども向けワークショップ等を実施した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル」との連携を続けており、上映企画を行った。
- ・「アニメーション・クリエイティブ・テクノロジー・フォーラム（ACTF）」との連携企画として、ウェビナー及びアニメーション制作関連のセミナーと展示事業を行った。
- ・「アニメ オブ ザ イヤー部門」にて、アニメーション美術家連盟、（公財）画像情報教育振興協会（CG-ARTS）、（一社）日本アニメーター・演出協会、（一社）日本音声製作者連盟、（協組）日本脚本家連盟に投票作成リストの制作に協力を頂いた。（詳細はこちら：<https://animefestival.jp/ja/award/aoy/>）



Nukufilm 特集
～エストニアアニメーションの不思議な世界～



日本アニメーション創業 50 周年記念
世界名作劇場より『小公女セーラ』&トークショー



TAAF2025 トーク & トーク『クラリスの夢』

4-iii コ・フェスタ2024 パートナーイベント

コ・フェスタ パートナーイベントは、コ・フェスタイベントのうち、国際性及び規模等でオフィシャルイベントに準じ、コ・フェスタ実行本部が承認したイベントである。本年度は17イベントが認定された。そのうち国内は14イベント、海外は3イベントだった。

- | | |
|----|--------------------------|
| 1 | 第46回 ぴあフィルムフェスティバル2024 |
| 2 | 京都国際マンガ・アニメフェア2024 |
| 3 | SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024 |
| 4 | 第40回ATP賞テレビグランプリ |
| 5 | 第49回湯布院映画祭 |
| 6 | きものサローネ 2024 |
| 7 | 第20回 吉祥寺国際アニメーション映画祭 |
| 8 | 第16回京都ヒストリカ国際映画祭 |
| 9 | MPTE AWARDS 2024 第77回表彰式 |
| 10 | 映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2024」 |
| 11 | ヨコハマ・フットボール映画祭2024 |
| 12 | CP+2025 |
| 13 | コンテンツ東京2024 秋 |
| 14 | JVA Festa 2024 – 美事祭 – |

海外パートナーイベント

- | | |
|---|--|
| 1 | HYPER JAPAN Festival 2024 |
| 2 | バンコク日本博2024 |
| 3 | Anime Festival Asia Singapore 2024 (AFASG24) |

パートナーイベント

第46回ぴあフィルムフェスティバル2024



会 期：2024年9月7日（土）～21日（土） オンライン配信は10月31日（木）まで
会 場：国立映画アーカイブ
主 催：（一社）PFF／（独）国立美術館 国立映画アーカイブ／（公財）川喜多記念映画文化財団／（公財）ユニジャパン
後 援：（特非）映像産業振興機構／（協組）日本映画監督協会
対 象：一般
公式サイト URL：https://pff.jp/46th/

総来場者数（参加数）：7,023人／前年比99%
（リアル参加：5,216人／前年比111%、オンライン視聴：1,807人／前年比75%）
プレス社数：新聞社：10／通信社：1／雑誌：4／WEB：24／テレビ：1／ラジオ：3

■開催内容

●自主映画コンペティション「PFFアワード2024」

全国から応募された自主映画692本（前年比+135本）の中から選ばれた入選作品19本を各2回ずつ上映、さらに映画祭初日から映画祭終了後の10月31日までオンライン配信も実施。映画祭の表彰式で、5名の最終審査員がグランプリほか各賞を発表。グランプリに輝いた川島佑喜監督の『I AM NOT INVISIBLE』をはじめ、合計8作品が受賞した。

最終審査員：小田香（フィルムメーカー／アーティスト）、小林エリカ（作家／アーティスト）、高崎卓馬（クリエイティブ・ディレクター／小説家）、仲野太賀（俳優）、吉田恵輔（映画監督）

●生誕100年・増村保造新発見！～決断する女たち～

黄金期の大映を支えた増村保造監督の生誕100年を記念し、監督デビュー作『くちづけ』をはじめ、13本を特集上映。増村映画のヒロインを演じた『盲獣』の緑魔子、『大地の子守歌』の原田美枝子、『曽根崎心中』の梶芽衣子をはじめとする多彩なゲストを迎え、才人・増村監督の魅力を改めて検証した。

●自由だぜ！80～90年代自主映画

PFF草創期からの自主映画の歴史を振り返る特集の2年目。今回は1980～90年代のPFF入選作品の中から、『気分を変えて？』『ORANGING'79』など伝説の8ミリ映画13本と、16ミリ映画2本をデジタル化して上映。犬童一心監督、今関あきよし監督、樋口尚文監督、古厩智之監督ら、8名のゲストが、当時を振り返りながら貴重なエピソードを披露した。

●中村靖日さんを偲んで

2024年7月に51歳の若さで急逝した名優・中村靖日を偲び、PFFアワード1994グランプリ受賞作『寮内厳粛』、PFFスカラシップ作品『運命じゃない人』などを上映。内田けんじ監督、俳優の山中聡、霧島れいからが、撮影時の思い出などを語った。

●第28回PFFスカラシップ作品『道行き』お披露目

『おばけ』で、PFFアワード2019グランプリを受賞した中尾広道監督の長編デビュー作『道行き』を完成披露上映。主演の渡辺大知と監督のトークを行った。

●PFFスペシャル映画講座

ジム・ジャームッシュ監督作品のポスターで有名なグラフィック・デザイナー、大島依提亜と、ブロードキャスター、ピーター・バラカンを講師に、映画のデザインと音楽映画に関する上映と講座を行った。



国立映画アーカイブロビー



PFFアワード受賞監督と最終審査員

第46回ぴあフィルムフェスティバル2024



●はじまりの映画 ～創るよろこび、観る驚き～

リュミエール兄弟による初期短編集や、セルゲイ・M・エイゼンシュテイン監督の『戦艦ポチョムキン』など、クラシックの名作を上映した。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

増村監督特集においては、U-NEXTで配信中の作品とも連携して相互宣伝を行った。映画祭でしか観ることができない作品と、オンラインで観ることができる作品を合わせて、より多くの増村作品に出合うことができる機会を創出した。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

①「第37回東京国際映画祭」との提携企画として、「PFFアワード2024」グランプリ受賞作品『I AM NOT INVISIBLE』、審査員特別賞受賞作品『松坂さん』『END of DINOSAURS』の3本を上映し、3監督との質疑応答を実施した。



『大地の子守歌』の原田美枝子と鶴岡恵子監督



『運命じゃない人』の山中聡、霧島れいか、内田けんじ監督



『道行き』の中尾広道監督と渡辺大知

パートナーイベント

京都国際マンガ・アニメフェア2024



会 期：2024年9月21日（土）・22日（日）
会 場：京都市勧業館みやこめっせ／ロームシアター京都 ほか
主 催：京都国際マンガ・アニメフェア実行委員会／京都市
共 催：KYOTO CMEX 実行委員会／京都国際マンガミュージアム／京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学
後 援：経済産業省
対 象：マンガ・アニメ・ゲームに関する企業・団体など
公式サイト URL：<https://kyomaf.kyoto/>

総来場者数（参加数）：35,730 人
出展社数：67 社
内 訳：（国内出展社数：67 社 海外出展社数：0 社）
プレス社数：37 社
内 訳：（国内プレス社数：31 社 海外プレス社数：6 社）

■開催内容

京都国際マンガ・アニメフェア（以下、「京まふ」という。）は、マンガ・アニメを活用した新たなビジネスの創出支援、クリエイターの育成支援・雇用機会の創出、若者や外国人をはじめとした新たな観光客の掘り起こし、マンガ・アニメ文化の海外発信によるコンテンツ都市・京都のブランド向上を目的とした西日本最大規模のマンガ・アニメ・ゲーム等の総合見本市である。

13回目の今回は、「コンテンツを活用した文化と経済の好循環の創出」、「学生・クリエイター育成／定住・交流機会の創出」、「コンテンツ都市としてのブランド向上」の3点を重点取組として実施した。

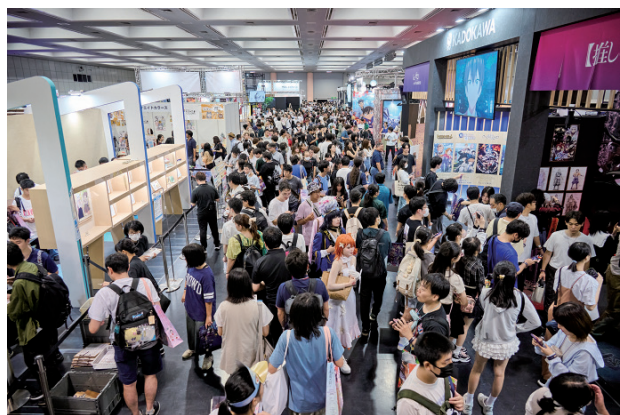
メイン会場では、67企業・団体がブース出展し、過去最大規模となった。また、豪華声優等が出演する24のステージイベントを実施し、総来場者数は35,730人、オンラインでの配信視聴者数は522,951回と多くの方に楽しんでいただいた。

クリエイター支援では、昨年度に引き続いてメインビジュアルの作成に京都芸術大学出身の若手クリエイターハマちゃんを起用し、各地でのポスター掲出やグッズ化等を行った。他にも、pixiv及び京都芸術大学と連携して京まふクリエイターズコンテストU25を開催し、応募総数209作品中の佳作以上の優秀作品については京まふ会場内に展示するなど、さまざまな施策を実施した。

また、マンガ出版社の編集部を京都に招き、マンガ家志望者が自分の作品を持ち込むことができる「マンガ出張編集部」は、11月30日、12月1日に京都国際マンガミュージアムで実施し、46編集部、204人に参加いただいた。同じくクリエイター支援を目的とする「京都クリエイティブ企業キャリアフォーラム」（コンテンツ関連企業の合同就職説明会）については、令和7年3月に京都コンピュータ学院京都駅前校で開催を予定している。

産業振興の面では、アニメと異業種のコラボレーションを表彰する「京都アニものづくりアワード」を開催し、京まふステージにて授賞式を実施するとともに、京都アニものづくりアワード参加企業と京まふ出展企業及び行政関係者の交流会を実施するなどコンテンツビジネスの活性化にも取り組んだ。

日本のマンガ・アニメ・ゲームといったコンテンツは海外でも人気を集めており、インバウンド向けの施策を充実させるなど、これまで以上に国際的な取組を模索するとともに、多角的な施策で老若男女、国内外問わず、多くの方々に楽しんでいただけるイベントとしたい。



会場内



伝統産業ワークショップ

京都国際マンガ・アニメフェア2024



■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

京まふ会場内では、ボードゲームなどのアナログゲームの祭典「ゲームマーケット2024京都in京まふ」を開催したほか、25歳以下を対象としたイラストコンテスト「京まふクリエイターズコンテストU25」を実施し、優秀作品を会場内に展示した。

また、伝統産業ミュージアムでは、人気イラストレーターLAM氏が作成した京友禅のきもののほか、様々なイラストが展示された「PROJECT KAGURA展」を実施した。

さらに、京まふ第2会場の京都国際マンガミュージアムでは、アニメーション映画の野外上映会を京まふ連携イベントとして実施し、2日間で外国人来場者を含む255名が参加した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

《連携イベント一覧》

- ・本丸御殿公開記念 NAKED 夏まつり 2024 世界遺産・二条城
- ・地学部と一緒に観電おでかけスタンプラリー
- ・えいでん×恋する小惑星コラボフェスタ4
- ・手塚治虫 ブラック・ジャック展
- ・京まふアニメトロ
- ・「終末トレインどこへいく?」×京都府赤十字血液センター
- ・KyotoMaterialYard (京都素材倉庫)
- ・コスプレパフォーマンスステージ「古都コス」



京まふショップ



カプセルトイ



メッセージボード

パートナーイベント

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024 SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2024

会 期：(スクリーン上映)2024年7月13日(土)～21日(日) (オンライン配信)2024年7月20日(土)～24日(水)

会 場：SKIPシティ映像ホール／多目的ホール ほか

主 催：埼玉県／川口市／川口商工会議所／SKIPシティ国際映画祭実行委員会

後 援：総務省／外務省／経済産業省／文化庁／(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(公財)ユニジャパン／(一社)外国映画輸入配給協会／(公社)映像文化製作者連盟／
(一社)日本映画テレビ技術協会／(一社)日本映画テレビプロデューサー協会／(協組)日本映画監督協会／
(協組)日本映画撮影監督協会／(協組)日本映画製作者協会／全国興行生活衛生同業組合連合会／
生活衛生同業組合埼玉県映画協会／(一社)デジタルコンテンツ協会／(特非)映像産業振興機構／NHK／
エフエムナックファイブ／埼玉新聞社／駐日イタリア大使館／駐日ウズベキスタン共和国大使館／
ドイツ連邦共和国大使館／ノルウェー大使館／ハンガリー大使館／リスト・ハンガリー文化センター／
在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス

対 象：一般、映画関係者

公式サイト URL：<https://www.skipcity-dcf.jp/>

総来場者数(参加数)：(スクリーン上映)7,046人、(オンライン配信)3,491回

出展参加国と地域数：102の国と地域

プレス社数：60社

■開催内容

第21回を迎えたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、ハイブリッド開催を継続し、スクリーン上映を7月13日(土)～21日(日)の9日間、オンライン配信を7月20日(土)～24日(水)の5日間にわたり開催した。

開催初日、オープニング作品として、串田壮史監督の『初級演技レッスン』をワールド・プレミアで上映。串田監督は2020年に『写真の女』で本映画祭SKIPシティアワードを受賞。2023年『マイマザーズアイズ』が2作品連続で国際コンペティションにノミネート。主演は2011年の本映画祭短編部門で奨励賞を受賞した『ケンとカズ』主演の毎熊克哉、2014年の本映画祭短編部門にノミネートされた『時ノカケラ』主演の大西礼芳が共演。

上映前には毎熊克哉、大西礼芳、岩田奏、串田壮史監督が登壇し、映画祭の幕開けを華やかに飾った。

本映画祭の中核であるコンペティションは、国際コンペティション、国内コンペティション(長編部門、短編部門)で構成されており、本年は102の国と地域から、1,201本の応募があり、その中から厳正な審査を経て、国際コンペティション10本、国内コンペティション長編部門6本、同短編部門8本を上映。会期中、国内外から監督、プロデューサー等ゲストも多数来場し、Q&Aセッションやトークイベントを行ったほか、来日の叶わなかった海外ゲストのインタビュー動画を上映するなど、制作者と観客との交流の場を設け、作品の理解を深めるとともに、映画祭を盛り上げた。国際コンペティションの審査委員長には映画監督の白石和彌氏、国内コンペティションの審査委員長には映画監督の横浜聡子氏を迎え、クロージング・セレモニーで各賞の発表・授与を行った。

国際コンペティションでは、最優秀作品賞(グランプリ)『日曜日』(ショキール・コリコヴ監督／ウズベキスタン)監督賞の『連れ去り児』(カラン・テージパル監督／インド)は観客賞とのW受賞、審査員特別賞は『嬉々な生活』(谷口慈彦監督／日本)、谷口監督は国際コンペティション、国内コンペティションを通じた全ての日本作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与するSKIPシティアワードのW受賞。

国内コンペティションでは、長編部門の優秀作品賞は『折にふれて』(村田陽奈監督)観客賞には『雨花蓮歌』(朴正一監督)、短編部門の優秀作品賞は『はなとこと』(田之上裕美監督)観客賞には『立てば転ぶ』(細井じゅん監督)が受賞した。



SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2024
SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2024

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

特集「商業映画監督への道」と題し、国際コンペティション審査委員長の白石和彌監督、国内コンペティション審査委員長の横浜聡子監督にご登壇いただき、おふたりの監督作品『止められるか、俺たちを』（白石監督）、『ウルトラミラクルラブストーリー』（横浜監督）を上映。上映後、監督より若手映画監督に向けて商業映画監督としての経験についてお話しいただいた。「みんなが観たい上映作品」ではアンケートの上位4作品『スタンド・バイ・ミー』『ショーシャンクの空に』『ドライブ・マイカー』『トップガン マーヴェリック』を上映、『トップガン マーヴェリック』上映後には映画字幕翻訳者 戸田奈津子さんをお招きし、「映画字幕翻訳の楽しみ方」についてお話しいただいた。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

第37回東京国際映画祭との提携企画として、SKIPシティアワードと国祭コンペティション審査員特別賞をダブル受賞した『嬉々な生活』を上映。監督・出演者によるQ&Aセッションも実施。

また、開催時には川口商工会議所による「Dシネマルシェ」にて映画祭のPRイベントを開催。



第40回ATP賞テレビグランプリ



会 期：2024年8月8日（木）
会 場：東京プリンスホテル 「プロビデンスホール」
主 催：（一社）全日本テレビ番組製作社連盟
後 援：総務省／経済産業省／日本放送協会／（一社）日本民間放送連盟
公式サイト URL：https://www.atp.or.jp/awards/atpaward/award_040.php

総来場者数（参加数）：281人
プレス社数：11社

■開催内容

『ATP賞テレビグランプリ』は、日本の映像コンテンツ産業の重要な担い手となっている製作会社の社会的機能を高め、そこで働く制作スタッフ一人ひとりの情熱や気概に応えるために、創り手である製作会社のプロデューサーやディレクターが自ら審査委員となって優れた作品を選ぶ、日本で唯一の賞として1984年に創設された。ドキュメンタリー部門、情報・バラエティ部門、ドラマ部門の3つのジャンルを基幹部門として作品を募集し、受賞式にて最高賞のグランプリを決定する。2024年度の『第40回ATP賞テレビグランプリ』は、8月8日（木）東京プリンスホテルにて開催した。今年の部門賞応募総数は168本、栄えあるグランプリは、3部門の最優秀賞の中からATP会員社の投票によって選ばれ、金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」（TBSスパークル／TBS）に輝いた。新人賞の応募総数は20名。優秀新人賞3名の中から、会員社の投票によって富田玲央（パオネットワーク）レギュラー番組への道「危険なささやき」（パオネットワーク、NHKエデュケーショナル／NHK総合）が選ばれた。

各部門の応募数

ドキュメンタリー65本、情報・バラエティ63本、ドラマ40本、新人賞20本 合計188本

主な受賞作品

【最優秀賞】

ドキュメンタリー部門

新・爆走風塵「中国・トラックドライバー 生き残りを賭けて」
（テムジン、NHKエンタープライズ／NHK BSプレミアム、NHK BS4K）

情報・バラエティ部門

市民X 謎の天才「サトシ・ナカモト」完全版（NHKエデュケーショナル／NHK BS1）

ドラマ部門

金曜ドラマ「不適切にもほどがある！」（TBSスパークル／TBS）

【優秀新人賞】

富田 玲央（パオネットワーク）

レギュラー番組への道「危険なささやき」（パオネットワーク、NHKエデュケーショナル／NHK総合）

岩元 晴香（メディア・メトル）情熱大陸「機能神経外科医 山本一徹」（メディア・メトル／毎日放送）

任 ソリブ（テムジン）

Asia Insight「ネパール 海外出稼ぎ大国の現実」（テムジン、NHKグローバルメディアサービス／NHK BS1）

【総務大臣賞】

「鷹を継ぐもの」（テムジン、NHKエデュケーショナル／NHK BSプレミアム、NHK BS4K）



第40回ATP賞テレビグランプリ



【特別賞】

堺 正章（タレント、司会者、歌手）
TARAKO（ナレーター、声優）
山口 秀矢（元えふぶんの壱取締役会長、プロデューサー）
「新しいカギ」制作チーム
「花嫁のれん」制作チーム
「ヒロシのぼっちキャンプ」制作チーム

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

40周年を記念して、若手クリエイターズフォーラムを実施した。『Jコンテンツの近未来～自分を突き動かすもの』をテーマに、ATP会員社から下記4名のクリエイターが登壇し、パネルディスカッションを行った。会場には80名を超える会員社や大学生が参加し、フォーラム終了後には懇親会を行い、若手クリエイターの情報交換や交流の場として貴重な時間になった。

ドキュメンタリー部門 柳田 香帆（テムジン）、丸山 梓（NHKエンタープライズ）
バラエティ部門 野中 翔太（日テレ アックスオン）
ドラマ部門 天宮沙恵子（TBSスパークル）

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

一昨年、日本の団体で初めてパートナーシップを締結した韓国・釜山国際映画祭併設の「アジアコンテンツアワード＆グローバルOTTアワード」（略称：ACA / Asia Contents Awards & Global OTT Awards）よりエレン・キム委員長をお招きし、ATP賞のグランプリ投票や受賞式にて祝辞を頂戴し相互の交流を深めた。



福浦理事長 挨拶



グランプリ「不適切にもほどがある！」



総務大臣賞「鷹を継ぐもの」



最優秀新人賞 富田玲央

パートナーイベント

第49回湯布院映画祭



会 期：2024年8月22日（木）～25日（日）
会 場：ゆふいんラックホール
主 催：湯布院映画祭実行委員会
後 援：由布市／由布市商工会／大分県興行生活衛生同業組合／大分合同新聞社／NHK大分放送局／OBS大分放送／
TOSテレビ大分／OAB大分朝日放送／エフエム大分／J：COM大分ケーブルテレコム／ゆふいんラヂオ局
対 象：全国の映画ファン
公式サイト URL：http://www.oct-net.ne.jp/yufuin-c/

総来場者数（参加数）：2,350人

内 訳：（国内入場者数（参加数）：23,50人 海外入場者数（参加数）： 人）

プレス社数：2社

内 訳（国内プレス社数：2社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

当代の人気者、とくに年少のスターや非職業俳優を主演に作られた『アイドル映画』は、映画史の中でとかく軽んじられ、“子供だまし”“お子様ランチ”と揶揄されてきた不遇のジャンルである。たしかに、修練を積んだ俳優の演技やよく練られた物語などの芸術的実力ではなく、世間の人気・知名度に頼りきった『アイドル映画』の企画はその発想自体、安易・安直と呼ばれても仕方がない。映画は芸術であると同時に、興行のための“商品”である宿命から逃れられないとは言え、実際、その作品群中の駄作・凡作には枚挙にいとまが無い。

しかし、そんな中であって稀に目を見張るような佳作・傑作が出現する時もあるわけで、それは、志の高い作家・スタッフ・俳優が、活動屋の意地とプライドをかけて作品に取り組み、主演アイドルが本来秘めていた非凡な才能や映画的魅力を引き出し開花させた奇跡的瞬間に他ならない。

第49回湯布院映画祭ではそんな『アイドル映画』の佳作・傑作・異色作にスポットライトを当て、歴史的検証をしつつ、『アイドル映画』が生んだもの、さらには生んでいくであろう日本映画の未来を展望してみたい。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

映画には各年代にその時に絶大な人気を博した俳優が出演していた。戦後で言えば、中村錦之助、美空ひばり、石原裕次郎、加山雄三、吉永小百合などがその代表であろう。所謂スターの映画を見るため、立ち見をしてまでも多くの観客が映画館に押し寄せた。しかし、その当時に、「アイドル映画」という言葉はなかった。初めてその呼称が付けられたのは、山口百恵と三浦友和が共演した一連の映画である。その後、角川映画の大規模な宣伝効果によって、一般の人にも認知されるようになったが、「アイドル映画」という言葉として定義されると理解されやすくなる半面、青春映画や歌謡映画と何が違うのか、出演者や製作者はどれほど「アイドル映画」としての意識を有していたのかを、企画の成立過程まで含めて検証した。

また、映画祭を通して、地方では直に接することが出来ない、「アイドル映画」の出演者や製作者に触れることで、映画の持つ根源的魅力を発見してもらいたい。



きものサローネ2024



会 期：2024年10月26日（土）・27日（日）
 会 場：国際フォーラムE1
 主 催：きものサローネ実行委員会
 協 賛：青山きもの学院／京ろまんグループホールディングス／
 すずのき／西陣織工業組合／イサミ足袋本舗／
 遊絲舎／(株)菱屋／京都 wabitas／(株)KITAMURA／
 (株)サマリー／(株)エスプールセールスサポート
 後 援：京都府／京都織物卸商業組合／東京織物卸商業組合／
 丹後織物工業組合／名古屋織物卸商業組合／
 西陣織工業組合／博多織工業組合／
 本場大島紬織物協同組合
 対 象：一般
 公式サイト URL：<https://www.kimono-salone.com/2024/>



総来場者数（参加数）：約8,000人
 内 訳：（国内入場者数（参加数）： 人 海外入場者数（参加数）：約80人）
 出展社数：122社
 内 訳：（国内出展社数：122社 海外出展社数： 社）

開催内容

今年も“「アタラシイ」に逢いにいく”を基本コンセプトに、リアルな会場でのイベントだけでなく、SNS・YouTube動画・ライブ配信など、さまざまな新しいツールを利用し日本最大級の着物イベント「きものサローネ2024」を発信した。

2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

帯を織機で織る職人技の実演、プロのアーティストによる和装での簡単に綺麗なヘアメイクテクニックのステージ、普段着ることが難しい着物を体験できるなど、新しい自分を発見できる体験コーナーを充実させた。



パートナーイベント

第20回 吉祥寺国際アニメーション映画祭

会 期：2025年2月21日（金）～23日（日・祝）
会 場：武蔵野公会堂
主 催：吉祥寺活性化協議会／吉祥寺国際アニメーション映画祭実行委員会
後 援：武蔵野市／東京都／経済産業省関東経済産業局
協 賛：武蔵野商工会議所／（一財）武蔵野市開発公社／武蔵野市商店会連合会
公式サイト URL：https://www.kichifes.jp/animation/

総来場者数（参加数）：延べ858人

プレス社数：2社

内訳（国内プレス社数：2社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

牧野惇特集～上映会&トークショー 令和7年2月21日（金）

CMやミュージックビデオの世界で大活躍中の牧野惇監督にスポットを当て、MV作品を中心に上映し、本人を迎えたトークショーを開催し、作品背景やいきさつなどを伺った。

トークショー：牧野惇×津堅信之（本映画祭審査委員）×森本晃司（アニメーション監督・本映画祭ゲスト審査員）

入場者（無料） 106人

三鷹の森ジブリ美術館連動企画「アニメーションの世界をつくる」 令和7年2月22日（土）

【プログラムA】『海がきこえる』上映 入場者（無料） 208人

【プログラムB】『サマーウォーズ』上映+トークショー「アニメーションの世界をつくる」。

武重洋二（『君たちはどう生きるか』美術監督）×細田守（アニメーション映画監督『サマーウォーズ』監督・原作）×津堅信之

入場者（無料） 210人

吉祥寺アニメーション映画祭 本選・表彰式 令和7年2月23日（日・祝）

応募総数93作品の中から15作品がノミネート。竹熊健太郎審査委員長のほか、吉祥寺周辺のアニメ制作会社が審査。今年はスペシャルゲストに湯浅政明氏も登壇。

入場者（無料） 155人

審査委員長：竹熊 健太郎

審査委員：津堅 信之、青木 純、白石 慶子、中村 誠、森本 晃司（ゲスト審査委員）

◎各賞受賞者／作品名

【グランプリ】	伊藤 里菜／『私は、私と、私が、私を、』
【優秀賞】	比留間 未桜／『ヨビとアマリ』
【ギャグアニメ賞】	該当なし
【ストップモーション・アニメーション賞】	該当なし
【審査員特別賞】	王 俊捷／『よだか』
【審査員特別賞】	ajisa／『孤』
【スタジオ4℃賞】	伊藤 里菜／『私は、私と、私が、私を、』
【コアミックス賞】	そら／『The Island』
【プロダクション・アイジー賞】	櫻井 嘉那子／『ブルースのステップ』
【ジブリ美術館賞】	櫻井 嘉那子／『ブルースのステップ』
【スタジオディーン賞】	そら／『The Island』



グランプリ表彰



受賞者&ノミネーター、審査委員集合写真

第20回 吉祥寺国際アニメーション映画祭

■ 2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

20周年記念スペシャル展 令和7年2月21日(金)～23日(日・祝)

吉祥寺アニメワンダーランド時代からのポスター、フラッグを展示して、20周年のあゆみを振り返った。

入場者(無料) 152人

ジブリの名場面！背景美術『フォトスポット』 令和7年2月17日(月)～23日(日・祝)

吉祥寺の大型店(アトレ吉祥寺、吉祥寺マルイ、キラリナ京王吉祥寺、コピス吉祥寺、東急百貨店吉祥寺店、ユニクロ吉祥寺店)内に、スタジオジブリ作品の背景美術『フォトスポット』を設置した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などがあれば、実施事例、件数や成果をご記載ください。

サポートイベント

○武蔵野市立吉祥寺図書館「未来の巨匠はここに！2025」 令和7年2月20日(木)～27日(木)

デジタルサイネージによる前年度入賞作品上映とアニメーション関連図書を展示。

○ユニクロ吉祥寺店 令和7年2月1日(木)～3月31日(月)

あなたの作ったキャラクターがTシャツやトートバッグになる！ユニクロ吉祥寺店UTme!を実施。

□吉祥寺マルイ 令和7年2月17日(月)～23日(日・祝)

□ブックスルーエ 令和7年2月15日(土)～28日(金)

映画祭スタートに先駆け吉祥寺マルイ4FとBOOKS ルーエにて、『サマーウォーズ』『on your mark』をはじめ武重洋二氏の美術監督作品の紹介「アニメーションの世界をつくる」、そして「哀しみのペラドンナ」深井国復元原画展を二本立てで開催した。



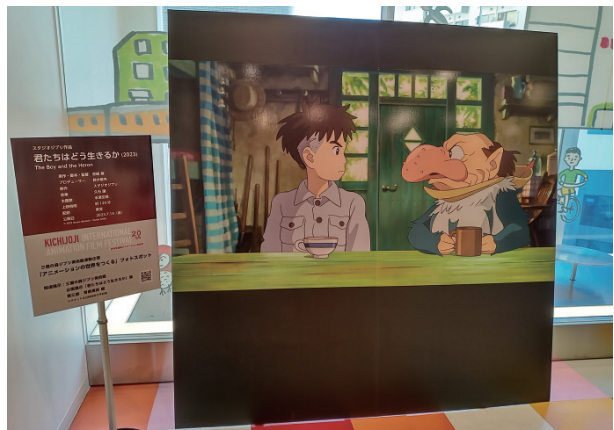
メイン立て看板



牧野監督トークショー



20周年記念展示



ユニクロ吉祥寺店フォトスポット

パートナーイベント

第16回京都ヒストリカ国際映画祭



会 期：2024年12月3日（火）～8日（日）
会 場：京都文化博物館 フィルムシアター、6F和室／オンライン
主 催：京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会
（京都府／京都文化博物館／東映(株)京都撮影所／(株)松竹撮影所／
（株）東映京都スタジオ／巖本金属(株)／(株)ディレクターズ・ユニブ／
立命館大学／(株)Skeleton Crew Studio／（一社）京都ヒストリカ）
共 催：KYOTO CMEX 実行委員会
後 援：（一社）日本映画製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／
（一社）日本映画テレビ技術協会／(株)エフエム京都
対 象：一般
公式サイト：https://historica-kyoto.com/



総来場者数（参加数）：2,057人

■開催内容

京都ヒストリカ国際映画祭、通称「HISTORICA」・「KHIFF」は、ジャンル映画祭として世界でただひとつ「歴史」をテーマにした国際映画祭である。今年度のヒストリカの公式プログラムは、2024年の時代劇を彩った『SHOGUN 将軍』と『侍タイムスリッパ』の2作品を中心に、ジャパンプレミアを含む海外新作を4作品、日本作品の新旧8作品を上映。他にもヴェネチア国際映画祭・ボローニャ復元映画祭や京都映画企画市と連携したプログラムなど、全18作品を上映した。イタリヤ、プエルトリコ、オランダなど海外からのゲストを含め16名のゲストが来場した。



昨年からスタートした週末の2日間に開催するカンファレンスイベント「ヒストリカお座敷」は、11セッション16名の登壇者が来場した。展示エリアではVR映画の体験やシアターで上映した『雪の花 一ともに在りて一』の衣裳展を実施。引き続き好評を得ているYouTube Liveを活用したオンライントーク企画「夜のヒストリカ」も継続して配信した。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

京都ヒストリカ国際映画祭は、短編時代劇を制作する滞在型ワークショップ「京都フィルムメーカーズラボ」、時代劇映画の企画 pitching「京都映画企画市」を有する。今年度は「京都フィルムメーカーズラボ」の2013年の参加者であるレイ・フィゲロア監督の『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・カリビアン』、2016年「京都映画企画市」で選出された葛哲一朗監督の『黒の牛』の2作品を上映した。本映画祭の関連企画をきっかけに生まれた歴史映画、時代劇が映画祭の公式プログラムに上映作品、監督として迎えることは、映画祭が目指した目標の一つである。



MPTE AWARDS 2024 第77回表彰式



会 期：2024年11月1日（金）
 会 場：時事通信ホール
 主 催：（一社）日本映画テレビ技術協会
 後 援：経済産業省／（一社）映画産業団体連合会／（一社）日本映画製作者連盟／
 （公財）ユニジャパン／（公社）映像文化製作者連盟／（一社）外国映画輸入配給協会／
 全国興行生活衛生同業組合（連）／（特非）映像産業振興機構／
 （一社）日本映像ソフト協会／（一社）日本アド・コンテンツ制作協会／
 （一社）日本ポストプロダクション協会／NHK／（一社）日本民間放送連盟／
 （一社）全日本テレビ番組製作社連盟／（協組）日本映画撮影監督協会／
 （協組）日本映画・テレビ照明協会／（協組）日本映画・テレビ美術監督協会／
 （協組）日本映画・テレビ録音協会／（協組）日本映画・テレビ編集協会／
 （公社）日本照明家協会／（特非）テレビ日本美術家協会／
 （特非）日本ビデオコミュニケーション協会（順不同敬称略）
 協 賛：（株）ナックイメージテクノロジー／（株）ニューテレス／ネットアップ（同）／
 （株）NHKテクノロジー／（株）TBSアクト／アオイスタジオ（株）／朝日放送テレビ（株）／
 アストロデザイン（株）／（株）アップサイド／池上通信機（株）／伊藤忠ケーブルシステム（株）／
 （株）IMAGICAエンタテインメントメディアサービス／（株）IMAGICA Lab.／NHK 報道局／
 NHK メディア技術局／（株）NHKアート／（株）オオトモエンジニアリング／
 カールツァイス（株）／（株）角川大映スタジオ／関西テレビ放送（株）／（株）関西東通／
 （株）GEAR／（株）共同エディット／（株）小輝日文／国際放映（株）／（株）三和映材社／松竹（株）／
 （株）松竹映像センター／ソニーPCL（株）／ソニープロテクノサポート（株）／
 ソニーマーケティング（株）／（株）千代田ビデオ／（株）TBSテレビ／（株）テレビ朝日／
 （株）テレビ朝日クリエイティブ／テレビ大阪（株）／（株）テレビ東京／東映（株）／
 東映アニメーション（株）／東映ラボ・テック（株）／（株）東京サウンド・プロダクション／
 東宝（株）／Dolby Japan（株）／日活（株）／（株）日テレ・テクニカル・リソース／
 日本大学芸術学部／日本テレビ放送網（株）／（一社）日本ポストプロダクション協会／
 （株）バスク／（株）バンエイト／ビジュアル・グラフィックス（株）／（株）フォトロン／
 （株）フジテレビジョン／（株）フジ・メディア・テクノロジー／（株）フレックス／（株）朋栄／
 （株）放送技術社／三友（株）／（株）WOWOW（順不同敬称略）
 対 象：映画テレビ技術に関連する技術者及び研究者
 公式サイト URL：https://mpte.jp/

総来場者数（参加数）：108人
 内訳：（国内入場者数（参加数）：108人 海外入場者数（参加数）：人）

■開催内容

1947年の創立以来、制作現場で技術に携わっておられる方々を表彰する日本で唯一の賞として、映像制作技術の進化と制作意欲の向上を目的に、長年実施しているMPTE AWARDS。毎年、該当年度の応募を募集し、ジャンルごとの技術者・総勢約100名を審査員に迎え、受賞を決定している。

2024年は、「第77回技術開発賞」、「第77回映像技術賞」、「第42回青い翼大賞（学生作品の映像技術賞）」、「第27回経済産業大臣賞（日本映画テレビ技術大賞）」の授与を行った。技術開発賞では現場開発分野からの応募が多く集まり、AIの革新的発展が反映された実績が目立った。映像技術賞も、撮影・照明・録音・音声・美術・編集・VFX・OAG各分野の表彰を行った。

協会創立と時を同じくして始まった本 AWARDS。77年目を迎えた現在は、映像コンテンツを誰しも気軽に発信できるようになり、製作環境は急速に変化し続けていると言える。だが、どの様な時代になろうとも、映像を創るのは人＝技術者の皆様。これから映像業界を目指す次世代の技術者達に意欲と勇気を与えることが出来る意義ある顕彰活動であるよう、次回に向け益々の発展を約束し、閉会した。

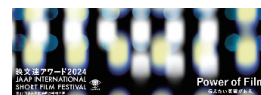
■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

「Inter BEE 2024」内の Inter BEE CINEMA オープンステージにて、MPTE 勉強会特別企画「MPTE AWARDS 大賞受賞『ゴジラ-1.0』録音・音響効果技術」を語りつくす!を実施した。音の技術的側面から作品を深く掘り下げた、映画愛溢れるセッションとなった。事前予約は即定員となり、当日は満席、立ち見も多く盛り上がった。



パートナーイベント

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2024」



会 期：2024年11月27日（水）～29日（金）

会 場：表彰式：国立新美術館講堂 上映会：ユーロライブ

主 催：公益社団法人 映像文化製作者連盟

後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／（特非）映像産業振興機構／（一社）日本映画テレビ技術協会／（一社）日本アド・コンテンツ制作協会／（一社）日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／日本映画テレビ照明協会／（一社）デジタルコンテンツ協会／（株）毎日新聞社／（株）日本経済新聞社／（株）朝日新聞社／（株）読売新聞東京本社／（株）映像新聞社／（有）ユニ通信社

対 象：一般／学生／映像制作関係者

公式サイト URL：http://www.eibunren.or.jp/award2024/index.html

総来場者数（参加数）：約1,000人 ※ライブ配信視聴者含む

内 訳：（国内入場者数（参加数）：1,000人 海外入場者数（参加数）： 人）

プレス社数：3社

内 訳：（国内プレス社数：3社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

18回目を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2024」表彰式は、11月27日（水）午後1時30分から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞（グランプリ）を始め、25作品に賞状とトロフィーを授与した。

「映文連アワード2024」受賞作品上映会は、28日（木）～29日（金）に渋谷・ユーロライブにおいて開催し、全受賞作品25本を6プログラム（「今を生きるために知っておく」、「心を動かす 素敵な仕事人」、「コーポレート映像の今」、「歴史を知るのは楽しい」、「若手クリエイターの映像表現Ⅰ」、「若手クリエイターの映像表現Ⅱ」）に分けて上映。トークセッションも2回開催。

28日夜は、「International Corporate Film Showing 2024」を開催し、World Media Festival、Cannes Corporate Media & TV Awards、US International Awards等の受賞映像19作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオメッセージを4本上映したことや、各種映画祭で審査委員を務める木村照彦副会長の解説付きで、充実した内容となった。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

コロナ禍で5年間にわたり未開催だった受賞者懇親会を実施した。受賞者同士や審査委員との交流を通して、この数年間はあまり見られなかったかもしれない関係の深まりが垣間見えた。

また、コロナ禍ではじめて表彰式の模様を、日経チャンネル（https://channel.nikkei.co.jp/）で取材してもらい、ライブ配信する企画を引き続き実施した。今後も当面アーカイブをしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。



最優秀作品賞（グランプリ）表彰



上映会会場



トークセッション



受賞者集合写真



受賞者集合写真

ヨコハマ・フットボール映画祭2024

ヨコハマ・フットボール映画祭

会 期：2024年10月12日（土）～18日（金）
 会 場：かなつくホール、シネマ・ジャック&ベティ
 主 催：（特非）横浜スポーツコミュニケーションズ／ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会
 後 援：横浜にぎわいスポーツ文化局／日本サッカー協会／Jリーグ／神奈川県サッカー協会／駐日韓国文化院／日英協会／横浜港振興協会
 対 象：映画ファン、サッカーファン
 公式サイト URL：http://yfff.org/yfff2024/

■開催内容

◆サッカー映画7作品を合計12上映しました。上映にあたっては、作品をより楽しむためのゲストを招きました。

「アーセン・ヴェンゲル Invincible」	笹木かおり（タレント）
「トリオ 〜セクステット」	家本政明、相楽亨（元国際審判）
「FCスカヴァティ 赤から紫へ」	ナ・バル監督、ソン・ホビン監督
「YOU'LL NEVER WALK ALONE」	眞嶋優、田丸由美子
「ビューティフル・ゲーム」	竹内 佑一（ホームレスワールドカップ 日本代表 GK コーチ）
ナショナル・シアター・ライブ『ディア・イングランド』	倉敷保雄、ベン・メイブリー（サッカーコメンテーター）
「アフター・ディエゴ」	ディエゴ・加藤・マラドーナ（タレント）

◆サッカーや映画をより深く楽しむためのトークイベントを6本実施しました

クレイジー “フットボール” ジャーニー
 J-Talk LIVE：Bringing J to the World
 家本政明のレフトーク！2
 プレチャントーキング！ in YFFF24
 トモに能登の未来へ！ ザ・ムービー
 ペンとマイク ～フットボールの伝え方～

◆フットボールエキスポ

サッカーカルチャーを身近に体験できる7ブースが出展しました。
 名古屋グランパス 新エンブレムの共創「GRAMPUS SOCIO PROJECT」
 UDオリヴェイレンセ SAD／ポルトガル2部リーグ所属
 よしおかちひろ（12log）フットボールアルケミスト原画&複製原画展
 Garage TRICOLORE
 Jサポフリーペーパーサミット エクストラ
 やどかり × TAWAGOTO
 gol.STORE TSUBASA



ヨコハマ・フットボール映画祭2024

ヨコハマ・フットボール映画祭

◆YFFFアワード2024 グランプリは『FCスカヴァティ 赤から紫へ』

今年の映画祭上映作品に対して、サッカー界、映画界の有識者による審査会の結果、下記の通り決定しました。

グランプリ	『FCスカヴァティ 赤から紫へ』(ナ・バル監督、ソン・ホビン監督)
審査員特別賞	ナショナル・シアター・ライブ『ディア・イングランド』(ジェームズ・グレーム監督)
ベストチーム賞	イングランド代表(ナショナル・シアター・ライブ『ディア・イングランド』)
ベスト監督賞	アーセン・ヴェンゲル(『アーセン・ヴェンゲル Invincible』)
ベストプレイヤー賞	ディエゴ・マラドーナ(『アフター・ディエゴ』)
ベストサポーター賞	RED CHEETHAS & A.S.U RED(『FCスカヴァティ 赤から紫へ』)
スペシャルメンション	『トリオ〜セクステッド』の6名の審判に

YFFFアワード2024 審査員(50音順)

今井 純子	日本サッカー協会リスペクト委員会委員長
平辻 哲也	映画ジャーナリスト
三原 勇希	タレント/MC

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・「FCスカヴァティ 赤から紫へ」にて韓国から製作者を招いて前夜祭イベント、上映トークなどを実施。日韓の映画、サッカーについての交流が実現しました。
- ・新しい映画の楽しみ方として、『ディア・イングランド』にて実況アナウンサー、解説者によるライブ・コメンタリー上映を実施しました。



CP+2025

CP+ CAMERA & PHOTO IMAGING SHOW 2025

会 期：2025年2月27日（木）～3月2日（日）

会 場：パシフィコ横浜

主 催：（一社）カメラ映像機器工業会

後 援：経済産業省／観光庁／神奈川県／横浜市／横浜商工会議所／日本貿易振興機構

特別協力：日本カメラ博物館／日本新聞博物館／横浜美術館

協 力：（公社）応用物理学会／カメラ記者クラブ／東京写真記者協会／

日本営業写真機材協会／（一社）日本オプトメカトロニクス協会／

（一財）日本カメラ財団／（一社）日本光学会／（公社）日本広告写真家協会／

（公社）日本写真家協会／（一社）日本写真映像用品工業会／（一社）日本写真学会／

（協組）日本写真館協会／（公社）日本写真協会／（一社）日本写真文化協会／

（一社）日本電子回路工業会／日本フォトイメージング協会／

（一社）日本望遠鏡工業会／パシフィコ横浜／（公財）横浜市観光協会

対 象：一般、ビジネス

公式サイト URL：https://www.cpplus.jp/

総来場者数（参加数）：55,791人（前年比112.4%）

出展社数：125社 過去最多

内訳：（国内出展社数：99社 海外出展社数：26社）

出展参加国と地域数：8の国と地域

■開催内容

CP+（シーピープラス）は、最新の写真・映像機器製品や技術、サービスを紹介し、写真・映像機器産業の未来と写真・映像文化の楽しみや広がり伝え、写真映像産業活性化を促進するコンシューマー＆ビジネスの世界最大級「総合的カメラ映像ショー」である。

CP+2025は、2025年2月27日（木）から3月2日（日）までの4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜での会場イベント（入場無料・事前登録制）およびオンラインにてハイブリッド形式で開催された。今回は、パシフィコ横浜の展示ホールに加えてアネックスホールを活用し、会場規模を拡大して実施。過去最多となる125の企業・団体が出展し、来場者数は55,791人（前年比112.4%）を記録。前回を上回る盛況となった。

本イベントのテーマは「Visualize Your Story あなたの物語をイメージにのせて」。「撮る」「見る」「つながる」をキーワードに、初心者からプロまで、写真や動画を愛するすべての人が楽しめる充実した内容で実施した。主なイベントとして、各社の新製品や注目製品の展示をはじめ、写真家や映像クリエイターによる充実のステージイベント、多彩な写真展、写真・動画撮影の体験型ワークショップ、SNS世代や若いファミリー・女性をターゲットにしたイベント、自主製作本（ZINE）販売会やライブ配信イベント等の企画を展開した。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

① ZINES FAIR at CP+ を実施

-100組を超える写真家クリエイターによる自主製作本（ZINE）販売会を初開催。クリエイター同志の交流を促進するほか、ZINESファンのCP+の認知度拡大や写真販売を通じて来場者が作品に触れる機会を増やした。

② 学校団体事前来場登録を開始

- 学生向け学校団体特別入場プログラムを設置し、より多くの若年層が参加できる環境を整えた。

③ キッズ入場証の導入

- 子供向けに安全面に配慮したキッズ用入場証を用意（カメラ型バッジホルダー）。若いファミリー層の来場促進、未来のカメラユーザー育成。子供のイベントへの興味を引き出した。

④ CP+公式アンバサダー（配信系インフルエンサー）の活用

- CP+のさらなる情報発信力アップを目的に、新たにCP+公式アンバサダーを募集。配信系インフルエンサーが自身のチャンネルを活用し、会場内の配信ブースからリアルタイムでイベントの魅力を配信した。CP+の盛り上がりを多くの人に伝え、CP+の認知度拡大や、来場促進につながった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

・Salon de la Photo（フランス）

- フランスの展示会Salon de la Photoと連携し、日仏合同写真展を開催。Les Zooms 2024の受賞作品、ZOOMS JAPAN 2025の受賞作品を、CP+会場内で展示した。また、ステージイベントとして、両国の受賞者によるトークショーを行うなど、日仏写真界の交流を深めた。



パートナーイベント

コンテンツ東京2024 秋



会 期：2024年11月20日（水）～22日（金）

会 場：幕張メッセ

主 催：RX Japan(株)

後 援：(特非)映像産業振興機構／(一社)キャラクターブランド・ライセンス協会／(一社)Cip協議会／
(一社)全国地域映像団体協議会／(一社)日本アド・コンテンツ制作協会／(一社)日本映画テレビ技術協会／
(公社)日本広告制作協会／(一社)日本動画協会／(公社)日本パッケージ協会

対 象：BtoB

公式サイト URL：https://www.content-tokyo.jp/hub/ja-jp.html

総来場者数（参加数）：18,138人（国内外数は未発表）

ビジネスエリアの来場者数（参加数）：18,138人

出展社数：295社（国内外数は未発表）

■開催内容

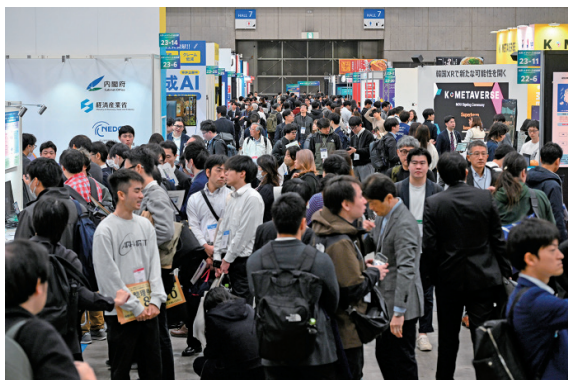
「コンテンツ東京」は、日本最大のコンテンツビジネスの総合展。13年前の2011年から毎年開催しており、2023年からは夏展と秋展の年2回開催している。

「コンテンツ東京」は、コンテンツ制作、映像・CG制作、ブランディング、マーケティング、権利、IT、最先端の表現技術などが出展し、メディア、エンターテインメントや企業の広報・マーケティング、商品企画部門の方々が来場し、活発な商談が行われている。

本展は、「ライセンシングジャパン」・「映像CG制作展」・「広告クリエイティブ・マーケティングEXPO」・「コミュニケーションデザインEXPO」・「先端デジタルテクノロジー展」・「クリエイターEXPO」の6つの展示会で構成されている。また、特設ゾーンとして「CONTENT HUB」「コンテンツビジネスサポートエリア」を設置。コンテンツビジネスの商談に直結する展示会として注目されている。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

出展社・来場者からの要望に応え、2024年から「コミュニケーションデザインEXPO」を新規開催。また、特設ゾーンとして「CONTENT HUB」「コンテンツビジネスサポートエリア」も新設。さらに充実した内容で開催。



JVA Festa 2024 – 美事祭 –
模型から、本物のセットまで これが日本の映像美術の裏側だ

JVA

会 期：2024年11月27日（水）～12月1日（日）
 会 場：調布市グリーンホール
 主 催：（特非）日本映像美術協議会
 共 催：（特非）テレビ日本美術家協会／調布市／
 （公財）調布市文化・コミュニティ振興財団／
 （一社）日本舞台美術家協会／（協組）日本映画・テレビ美術監督協会
 後 援：文化庁／（協組）日本映画・テレビ照明協会／
 （特非）映像産業振興協会／調布エフエム放送㈱
 対 象：映像・舞台・イベント関連業、一般
 公式サイト URL：<https://www.jva.gr.jp>



総来場者数（参加数）：1,117人
 出展参加国と地域数：1の国と地域
 プレス社数：2社
 内訳（国内プレス社数：2社 海外プレス社数： 社）

■開催内容

「JVA フェスタ 2022 美事祭～世界も注目！これが日本の映画・テレビ・CM 美術の裏側だ」

映像美術の仕事・体験展示会

- ・会員各社の技術、ノウハウ、サービス等の展示（ドラマセット展示）
- ・映像美術の体験・参加型展示（衣裳、小道具、メイク なりきり体験、外観電飾）
- ・映像美術作品コンテスト（JVA 賞）
- ・ロビー テーマ展示、イベント

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

撮影のための装飾や大道具のための端材を利用したクラフトワークショップを開催し2日間で約100名の参加者があった。



HYPER JAPAN Festival 2024



会 期：2024年7月19日（金）～21日（日）
会 場：Olympia Events（英国ロンドン）
主 催：Cross Media Ltd.
後 援：在英日本国大使館／（独）日本貿易振興機構（JETRO）／
（独）国際観光振興機構（JNTO）／（独）国際交流基金／
（一財）自治体国際化協（CLAIR）／
（一財）日本音楽産業・文化振興財団（JMCE）／
NPO 法人映像産業振興機構（VIPO）／（一社）日本動画協会（AJA）／
（一財）デジタルコンテンツ協会（DCAJ）／日本政府クールジャパン（CJPF）
対 象：主に日本文化好きの英国人
公式サイト URL：<https://hyperjapan.co.uk/festival-2024/>

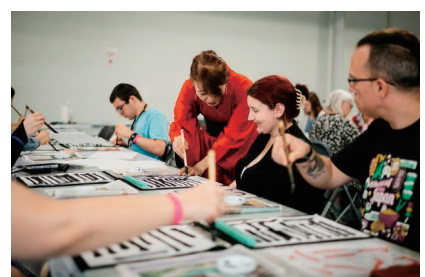
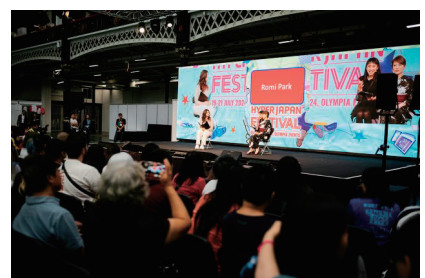
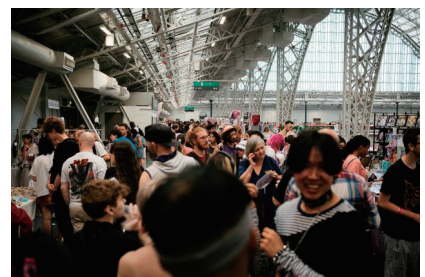
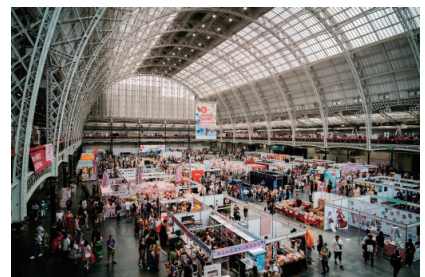
総来場者数（参加数）：32,000 人
内 訳：（国内入場者数（参加数）：0 人 海外入場者数（参加数）：32,000 人）
ビジネスエリアの来場者数（参加数）：0 人
出展社数：374 社
内 訳：（国内出展社数：15 社 海外出展社数：359 社）
出展参加国と地域数：2 の国と地域
バイヤー数：0 人
商談件数：0 件
成約金額：0 円 または US ドル
プレス社数：100 社
内 訳（国内プレス社数：4 社 海外プレス社数：96 社）

■開催内容

日本の今を伝えるべく、日本からの出展社やアーティストを迎えての開催は今回で20回目。これまで以上に日本人気を感じる中で、まだ日本でしか味わえないものやアーティストのパフォーマンスをイギリス現地でも感じてもらえるよう活動し、ロンドン市内で高い評価を得ている『千と千尋の神隠し』の舞台に出演する俳優・声優の朴璐美氏をはじめとしたアーティストとの交流の場を設けたり、きのこの山・たけのこの里のローンチに合わせて2024年夏グローバル大使に任命された芸人・とにかく明るい安村氏がステージでプロモーションするなど熱い夏の3日間となった。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

これまで以上にアーティスト招聘に力を入れるべく予算づくりをし、ステージの仕様もLEDを使う等アップグレード。



バンコク日本博2024



会 期：2024年8月30日（金）～9月1日（日）
会 場：サイアムパラゴン5階/パラゴンホール
主 催：バンコク日本博2024実行委員会／(株)ジェイエデュケーション
共 催：パーソネルコンサルタントマンパワータイランド(株)
後 援：在タイ日本国大使館／国際交流基金バンコク日本文化センター／(独)日本貿易振興機構／日本政府観光局／
(独)国際協力機構／タイ国日本人会／御茶ノ水ロータリークラブ／バンコクロタリークラブ
対 象：一般、ビジネス
公式サイト URL： <https://nipponhaku.com/>

総来場者数（参加数）：118,104人
ビジネスエリアの来場者数（参加数）：69人
内訳：（国内入場者数（参加数）： 人 海外入場者数（参加数）：69人）
出展社数：196社
内訳：（国内出展社数：101社 海外出展社数：95社）
出展参加国と地域数：2の国と地域
バイヤー数：69人
内訳：（国内バイヤー： 人 海外バイヤー：69人）
商談件数：17件
プレス社数：237社

■開催内容

バンコクの中心にあるショッピングセンターのサイアムパラゴンにて、「バンコク日本博2024」を8月30日から9月1日まで実施。トラベル、ショッピング、コンテンツ、食、留学、就職などの日本の魅力を網羅し、日本のコンテンツ力を活用して、集客に活かすとともに、各産業の紹介、タイにおける需要の創出と発展に繋げることを目的としている。

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

- ・タイと日本に影響を与えるインフルエンサー24組に対して、インフルエンサーアワードをステージで初日に実施。表彰されたインフルエンサーが、受賞したことをSNSに発信することで、更にイベントの広報にも繋がった。

■他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

- ・自治体向けに、現地旅行会社とのビジネスマッチングを実施した。



Anime Festival Asia Singapore 2024 (AFASG24)



会 期：2024年11月29日（金）～12月1日（日）
会 場：Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre
主 催：SOZO Pte. Ltd.
共 催：(株)ホリプロインターナショナル／(株)HT Entertainment／(株)ライブエグザム／(株)ドワンゴ
後 援：シンガポール政府観光局
対 象：アニメ、マンガ、ゲーム、コスプレ、JPOP（音楽）など
公式サイト URL：https://animefestival.asia/afasg24/

総来場者数（参加数）：127,632人
内 訳：（国内入場者数（参加数）：62% 海外入場者数（参加数）：38%）
ビジネスエリアの来場者数（参加数）：非設定
出展社数：238社+192クリエイターブース
出展参加国と地域数：18の国と地域
プレス社数：142社

■開催内容

Anime Festival Asia Singapore 2024 (AFASG24) は、日本のポップカルチャーを紹介する東南アジア最大級のイベントであり、本年も東南アジア全域から、アニメ、マンガ、音楽、コスプレといった多彩なコンテンツを通じて、あらゆる世代のファンが参加したイベントとなった。

AFASG24のハイライト

AFASGの人気イベントとして、毎晩、日替わりで開催される、日本の著名なアーティストやアニソン歌手を招聘したコンサートがあり、本年も数多くのアーティストがステージを飾り、本物のパフォーマンスを現地のファンに届けた。

主なアーティスト出演アーティスト（敬称略）

AquaTimez、西川貴教、TeddyLoid、角巻ため（hololive）、KAF、KANA-BOON、ReoNa、May'n、天城サリー（22/7）など。
またデイステージでは、多くの声優、制作スタッフなどが登壇し、パネルディスカッション、独占プレミアなどを通じて、アニメ・マンガの最新情報を現地に届けた。

主な登壇ゲスト（敬称略）

広瀬裕也、矢野奨吾、早見沙織、大塚剛央、五十嵐裕美、立石凜、青木陽菜、大塚学、宇田鋼之介、榎木淳弥など

■2024年度の新規取り組みとその成果・特色など

Asia Creators Cross Program

日本の「ニコニコ超会議」と東南アジアの「Anime Festival Asia」が共同で、「Asia Creators Cross」という国際的なクリエイターコラボレーションプログラムの立ち上げを発表した。この取り組みは、日本とASIAのクリエイターをつなぎ、コラボレーション、ネットワーキング、国際的な露出の機会を提供することを目的とし、ローカルイベントやオンラインプラットフォームを通じてクリエイターがアイデアを共有し、キャリアをさらに発展させるための活気あるコミュニティを創造していくことをゴールとしている。

